

NEWS LETTER

No.



2006
SEPTEMBER

リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology

創立50周年記念企画(3)

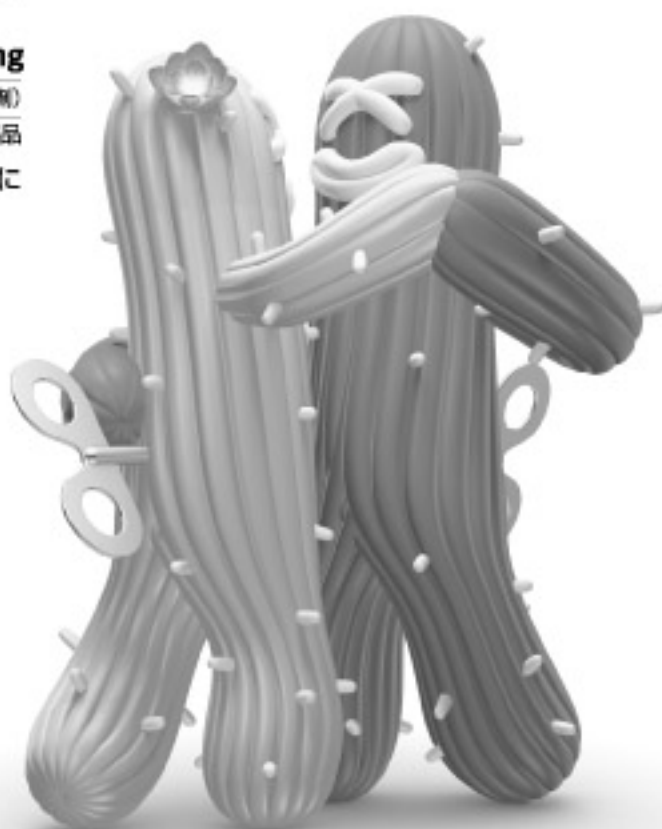


有限責任中間法人

日本リウマチ学会

非ステロイド性消炎・鎮痛剤 薬価基準収載
モービック® 錠 5mg・10mg
 Mobic® Tablets 5mg・10mg (メロキシカム製剤)
 劇薬/指定医薬品

※効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等については添付文書等をご参照ください。



販売元

いのち、ふくらまそう。



第一製薬株式会社



Daiichi-Sankyo
GROUP

資料請求先

〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

ホームページアドレス

<http://www.daiichipharm.co.jp/>



Boehringer
Ingelheim

製造販売元

日本ベーリンガーインゲルハム株式会社
 東京都千代田区豊洲2丁目6番8号

127X180 7/06

体外診断用医薬品

リウマチの新しい見方

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3

MMP-3

関節滑膜の活動性把握に血清又は血漿MMP-3

血清又は血漿
MMP-3
関節滑膜の増殖

リウマトイド因子
抗ガラクトース欠損IgG抗体等

免疫学的異常

X線写真
骨の破壊

CRP、赤沈等
全身の炎症

健保適用

パナクリア® MMP-3 「ラテックス」

血清又は血漿中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3測定用

販売元



第一化学薬品株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目13番5号

製造販売元



第一ファインケミカル株式会社



宮坂 信之

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
膠原病・リウマチ内科学分野 教授

学会の国際化に向けて

今や日本リウマチ学会は国際化に向けて「生みの苦しみ」を味わっている。国際的であるということはすべての規範をグローバルスタンダードに合致させなくてはならない。そのためには、学会の透明性を高め、すべてに説明責任を果たす必要がある。これまでそれが十分であったかはともかくとして、今や小池隆夫理事長のもとに着々と改革が行われているのは喜ばしいことである。

国際化のためには、わが国における「リウマチ専門医」統一化の努力も必要である。そもそもすべての専門医は本来の所属学会（たとえば日本内科学会、日本整形外科学会）での認定医を取得した後に、二階建ての存在として存在すべきものである。しかし未だにリウマチの専門医は、日本リウマチ学会、日本整形外科学会で別々のポリシーによって認定をしている。そこに加えてリウマチ財団登録医という存在もあり、患者には理解をしがたいシステムになっている。しかし、資格試験のないところには専門医は存在しないということを再度認識する必要がある。

国際化の遅滞はわが国におけるメトトレキサート(MTX)の使用量、使用頻度をみてもわかる。わが国では依然として副作用を恐れるあまり、MTXの使用を回避したり、MTXの十分用量を投与できない医師が数あまたいるのは紛れもない事実である。この事実を見ずして日本のリウマチ医療がグローバルスタンダードに到達しているなどと言うのは、時代錯誤もはなはだしい。

学会と総会との関係もしかりである。これまでは学会と総会とは事務局業務も別々、会計も別々であった。しかし、これからは日本リウマチ学会事務局を拡充することにより、総会事務及び会計もすべて日本リウマチ学会事務局の主導で行うべきである。集金力のある会長が使いたい放題に総会費用を使用することは避けなければならない。できることならば、総会は東京、大阪、博多などの大都市に開催地を固定し、学会事務局をさらにIT化するとともに海外とも英語でやりとりができる語学堪能な若手を置くべきである。総会運営のノウハウが蓄積されないまま、学会屋さんの言うがままに多額の総会運営費用を支払わされるのは愚の骨頂である。

私が約10年間にわたって編集長を務めたModern RheumatologyもようやくPubMedなどへの掲載が可能となった。私の在任中にそれが果たせなかったのが痛恨の極みであるが、今回の快挙は三森現編集長以下編集委員の努力によるところが多い。今後、高いimpact factorが付くようになってこそ、初めて国際的な英文誌と認識されることとなる。ますますの発展を期待するところである。

第51回日本リウマチ学会総会・学術集会 第16回国際リウマチシンポジウム

JCR 2007

会期：2007年(平成19年)
4月26日(木)～29日(日)
会場：パシフィコ横浜



第51回日本リウマチ学会総会・学術集会
第16回国際リウマチシンポジウム
会長 龍 順之助

日本リウマチ学会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。

私は、日本大学医学部整形外科の龍順之助です。

このたび、第51回日本リウマチ学会総会・学術集会および第16回国際リウマチシンポジウムを、平成19年4月26日(木)より29日(日)までの4日間にわたり、横浜パシフィコ会議センター(横浜市)にて開催させていただくことになり、現在鋭意準備を進めております。

今回は、「次なる半世紀に向けて—病態解明と治療の新たな挑戦—」をテーマに掲げ、特別講演、教育研修講演、シンポジウム、ワークショップ、ポスターセッション、ランチ

ンセミナー、イブニングセミナーを予定しております。

日本リウマチ学会総会・学術集会は今年4月、50周年という節目を迎え、長崎大学の江口勝美会長のもと長崎にて盛会に開催されました。今回は、51回目の学術集会として、新たな半世紀の幕開けにあたります。その記念すべき年に伝統ある本学会を開催させていただきますことを、大変光栄に存じております。

近年は、関節リウマチの治療は、生物学的製剤の導入により、治療法が大きく変化しつつあり、多大なる関心が寄せられております。また、本学会参加者も4000人を超えると予想されます。本学会を通して、リウマチ性疾患の幅広い分野についての臨床、研究、教育について最新の知見、トピックス、オーバービューを公開し、臨床と基礎の垣根を超えた情報交換の場であるよう、さまざまな企画をしております。

会期中の4月26日～29日の間、シンポジウム12題の他、特別講演、ランチョンセミナー計24題、イブニングセミナー計10題を予定しております。また今回の特徴として、教育研修講演を22題企画しております。各分野におけるトップクラスの先生方に貴重なお話をいただき、また会員の皆様には学会参加と同時に、教育研修単位の取得にも役立つよう考案しました。この機会に新しい情報交換、収集の場といたく、これらの多くの企画を用意し、学会場にてお待ちしております。

会員の皆様にとりまして、今までにも増して活発で実りある、日本リウマチ学会学術集会でありますよう、できる限りの努力をさせていただきます。

是非、多くの先生方にご参加いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

第51回日本リウマチ学会総会・学術集会／第16回国際リウマチシンポジウム

1. 会 期
2007年(平成19年)4月26日(木)～ 29日(日)
2. 会 場
パシフィコ横浜
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL：045-221-2155 (代) <http://www.pacifico.co.jp/>
3. 会 長
日本大学医学部整形外科 主任教授
龍 順之助
4. 学術集會事務局(連絡先)
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1
日本大学医学部整形外科学教室 斎藤 修
TEL：03-3972-8111 内線(2492) FAX：03-5966-8644
E-mail：ra07nmo@med.nihon-u.ac.jp
5. JCR2007運営事務局
c/o株式会社コングレ 担当者：飯塚、鈴木
〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル6階
TEL：03-5216-5318 FAX：03-5216-5552
E-mail：jcr2007@congre.co.jp
6. 開催日程(予定)

4月26日(木)	8：00～16：30 第51回日本リウマチ学会総会・学術集会 8：30～15：30 第16回国際リウマチシンポジウム 16：30～18：00 評議員会 16：30～18：00 イブニングセミナー 18：30～20：30 会員懇談会(インターコンチネンタルホテル)
4月27日(金)	9：00～16：00 第51回日本リウマチ学会総会・学術集会 9：00～16：00 第16回国際リウマチシンポジウム 12：45～13：30 社員総会 13：30～15：00 学会賞受賞式、受賞者講演 17：00～18：30 イブニングセミナー
4月28日(土)	9：00～16：00 第51回日本リウマチ学会総会・学術集会 9：00～11：30 第16回国際リウマチシンポジウム 17：00～18：00 特別講演
4月29日(日)	8：00～12：00 Annual Course Lecture 14：00～16：00 市民公開講座

7. 参加登録費(予定)
アニュアルコースレクチャー：5,000円
学会参加費：15,000円
会員懇親会(事前予約)：10,000円

8. 演題募集要項
募集演題：ワークショップ(一般口演)
演題応募方法：オンライン登録のみの受付となります
ホームページ：<http://www.congre.co.jp/jcr2007/>
登録期間：2006年9月28日(木)～2006年11月30日(木)
※締切日の延長はありません

第51回日本リウマチ学会総会・学術集会／第16回国際リウマチシン

第51回日本リウマチ学会総会・学術集会

第51回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム委員会

委員長	竹内 勤	埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科
副委員長	勝呂 徹	東邦大学医学部整形外科
	澤田 滋正	日本大学医学部付属練馬光が丘病院内科
委員	石黒 直樹	名古屋大学整形外科
	猪熊 茂子	都立駒込病院アレルギー・膠原病科
	岡田 保則	慶應義塾大学医学部病理学教室
	尾崎 承一	聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科
	川合 真一	東邦大学医療センター大森病院膠原病科
	小池 隆夫	北海道大学大学院医学研究科病態内科学講座・第二内科
	小安 重夫	慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学
	齊藤 聖二	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター
	斎藤 知行	横浜市立大学整形外科
	澤井 高志	岩手医科大学病理学第一講座
	住田 孝之	筑波大学大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻臨床免疫学
	高倉 義典	奈良県立医科大学整形外科
	高崎 芳成	順天堂大学膠原病内科
	武井 正美	日本大学医学部血液膠原病内科
	中川 研二	藤田保健衛生大学整形外科
	藤田 之彦	日本大学医学部小児科
	三浪 明男	北海道大学医学部整形外科
	三森 経世	京都大学大学院医学研究科臨床免疫学
	宮坂 信之	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科膠原病・リウマチ内科学
	村澤 章	新潟県立瀨波病院リウマチ科
	山中 寿	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター
	山本 一彦	東京大学医学部アレルギー・リウマチ内科
	横田 俊平	横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学

一般演題項目

カテゴリー NO.	番号	一般演題項目
A	1	滑膜増殖と制御
	2	サイトカイン・ケモカイン
B	3	関節リウマチの病態解析
C	4	関節リウマチの関節破壊機序
	5	動物モデルでの関節炎の解析
D	6	関節リウマチの治療：メトトレキサートとレフルノミド
	7	関節リウマチの治療：シクロスポリンとタクロリムス
E	8	関節リウマチの治療：白血球除去療法
	9	関節リウマチの治療：抗リウマチ薬、ステロイド、NSAIDs等
	10	関節リウマチの遺伝子治療
F	11	関節リウマチの治療：インフリキシマブ
G	12	関節リウマチの治療：エタネルセプト
	13	関節リウマチの治療：その他の生物学的製剤
H	14	関節リウマチの経過と予後予測因子
	15	関節リウマチの関節外病変
I	16	SLEの病因・病態
	17	SLEの臨床
	18	ループス腎炎
	19	CNSループス
J	20	抗リン脂質抗体症候群
	21	多発性筋炎/皮膚筋炎の病因・病態
	22	多発性筋炎/皮膚筋炎の臨床
	23	多発性筋炎/皮膚筋炎の肺病変
K	24	強皮症の病因・病態
	25	強皮症の臨床
L	26	シェーグレン症候群の病因・病態
	27	シェーグレン症候群の臨床
	28	IgG4と自己免疫疾患

カテゴリー NO.	番号	一般演題項目
M	29	小児の膠原病
	30	混合性結合組織病とオーバーラップ症候群
	31	リウマチ性疾患の肺病変・肺高血圧症
N	32	血管炎症候群
	33	ANCA関連血管炎
	34	その他の膠原病
O	35	関節リウマチの早期診断
	36	関節リウマチの画像診断
	37	自己免疫疾患病態の早期診断
	38	抗CCP抗体、CARF、MMP-3
	39	その他の自己抗体
P	40	動物モデルでの自己免疫疾患の解析
	41	自己免疫疾患とシグナル伝達
	42	リウマチ性疾患の病因としての微生物感染
	43	リウマチ性疾患の遺伝子解析
Q	44	変形性関節症の病因・病態・臨床
	45	軟骨の変性と再生機序
	46	関節リウマチの脊椎病変と手術療法
R	47	関節リウマチ股関節の手術療法
	48	関節リウマチ膝関節の手術療法
	49	関節リウマチ足の手術療法
S	50	関節リウマチ上肢の手術療法
	51	関節リウマチに対する手術のタイミング
	52	関節リウマチに対する手術療法の合併症対策
T	53	関節リウマチの上肢病変
	54	関節リウマチの下肢病変
	55	生物学的製剤と手術
U	56	骨粗鬆症・骨代謝
V	57	リウマチ性疾患のQOL・リハビリテーション・医療体制・病診連携

第16回国際リウマチシンポジウム・海外招聘講演者（予定）

(Japanese lecturers will be announced later)

(日本人講演者は後日発表)

The 16th International Rheumatology Symposium (April 26-28, 2007), Pacifico Yokohama

Invited Overseas Lecturers

Recent progress in pathogenesis of RA

- | | |
|-----------------------|--|
| RA genetics -USA | Dr. T.W.J. Huizinga (Leiden University Medical Center) -planned- |
| RA environment | Dr. Lars Klareskog (Karolinska University Hospital) -planned- |
| RA experimental model | Dr. Wim van den Berg (University Medical Center Nijmegen) |
| JIA | Dr. Raphael Hirsch (University of Pittsburgh) |

Recent progress in systemic autoimmune diseases

- | | |
|--------------|---|
| SLE genetics | Dr. Robert P. Kimberly (University Of Alabama) -planned- |
| CNS lupus | Dr. Diamond Betty (Western Pennsylvania Hospital) -planned- |
| PM/DM | Dr. Frederick W. Miller (National Institute of Health) |
| Ssc | Dr. Thomas A Medsger Jr. (University of Pittsburgh) -planned- |

Recent progress in targeted therapy

- | | |
|----------------|---|
| TNF inhibitors | Dr. Jonathan Kay (Massachusetts General Hospital) -planned- |
| CTLA4 | Dr. Mark C. Genovese (Stanford University) -planned- |
| Rituximab | To be fixed later |

Recent progress in cartilage research and OA

- | | |
|---|--|
| Development of articular cartilage | Dr. Charles W. Archer (Cardiff University) |
| Collagen degradation products as biomarkers of cartilage metabolism and joint disease | Dr. David R. Eyre (University of Washington) |
| Progress of therapy for OA | Dr. Marc C Hochberg (University of Maryland) |

Recent progress in Surgery

- | |
|---|
| Dr. Beat R. Simmen (Schulthess Klinik,) |
| Dr. Gerard A. Engh (Anderson Orthopaedic Institute Arlington) |

(中)日本リウマチ学会創立50周年記念企画 第三回



柏川 禮司 ■ 第40回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長 (中)日本リウマチ学会 名誉会員
済生会川俣病院 リウマチ科

リウマチ学の思い出

リウマチ学会で始めて発表したのは入局3年目の昭和37年5月、別府市公民館で行なわれた第6回日本リウマチ学会総会(会長矢野良一教授)でした。演題は「関節リウマチ患者血清中のモルモット皮膚壊死形成・肺肉芽腫形成因子」。座長は病理学の林秀雄先生で厳しい質問を受けました。当時は演題の全てを一会場で聞きましたが、現在は15会場にもなります。会場を飛び回らなくても、リウマチ学の流れがわかる一会場があっても良いと思います。



松井 宣夫 ■ 第41回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長 名古屋市立大学 名誉教授
名古屋市総合リハビリテーションセンター センター長

リウマチ治療の進歩

第41回日本リウマチ学会総会を平成9年(1997)5月名古屋市で担当させて頂いた。過去数年、関節リウマチの治療は格段の進歩をとげ、特に、MTXと生物学的製剤に負う所が多い。翻って、9年前の名古屋の学会では、サイトカイン関連はわずか9演題でどれも基礎的なもので、カルフォルニア大学のProf. Weismann による特別講演「TNF and Anti-TNF Treatment in Rheumatoid Arthritis」1題のみが抗サイトカイン療法関連であり、当時米国でも未承認で斬新的治療法であり感動し拝聴した。本邦では3年前許可されたInfliximabは現在1万人余りのリウマチ患者に使用され、好成績が得られていることは患者にとりこの上ない福音である。1日も早くリウマチの病因の解明が望まれる所である。50周年を祝い今後のリウマチ学の更なる発展を期待したい。



吉木 敬 ■ 第43回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長 北海道大学名誉教授
(株)ジェネティックラボ会長

第43回日本リウマチ学会総会・学術集会を御世話して

第43回の日本リウマチ学会総会・学術集会是津軽海峡を越えて初めて札幌で開催された。基礎から多田富雄先生(東大免疫)に「新しい生命観と医療」、臨床から安倍達先生(埼玉医大内科)に「患者に学ぶリウマチ学」と題した特別講演をお願いしいずれも好評だった。特に安倍先生はその頃は未だ珍しかった電子プレゼンテーションでの講演を希望され、講演会場ではそれまで経験が無いということで心配したが、無事に終わったときはほっとしたのを覚えている。最近の学会発表は全て電子プレゼンテーションに変わり、動画なども自由に提示出来るようになった。たった7年前だが、隔世の感がある。日本におけるリウマチ学もそんな速さで進歩しているだろうか。自問している昨今である。



腰野 富久 ■ 第44回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長
横浜市立大学医学部整形外科学教室 名誉教授

第44回日本リウマチ学会総会を終えて

2000年5月13日から15日までパシフィコ横浜で総会・学術集会を開催し、国の内外から一流の学者を迎え、学会員3596名のご参加をいただいた。イングリッシュを含めてシンポジウム16、ワークショップ72、一般講演73、症例報告15、小児8、合計184セッション、1000題以上の演題が、14会場で発表され、白熱した討論が交わされた。特別演題ではH.E. Jasin教授(米)、水島裕教授、奥田研爾教授が最新の知見を述べ、会長講演では「変形性膝関節症の治療と変性軟骨の再生」をのべた。将来、学術集会を国際的な方向で進めることが重要である。

歴代会長及び名誉会員の声と提言

有限責任中間法人日本リウマチ学会は本年、創立50周年を迎えます。本誌は50周年記念の年2006年に3回シリーズで特集を組み、学会の発展に貢献された歴代会長や名誉会員の声と提言を掲載します。特集の第3回目は、第40回から第49回までの学会長と名誉会員の先生方を取り上げました。

**橋本博史**

第45回日本リウマチ学会総会・学術集会 会長
順天堂大学附属順天堂越谷病院院長

21世紀へのぞむリウマチ学

記念すべき21世紀の初年度に日本リウマチ学会総会・学術集会会長を勤めさせていただき大変光栄に思っております。“骨と関節の10年”というキャンペーン活動が開始された時期でもあり、“21世紀へのぞむリウマチ学”というテーマで、温故知新を基盤に今後解決すべき問題点とその方策を討議することに主眼をおきました。多くの方々のご参画・ご協力のもと最先端の研究、最新の医療から専門医制度や医療連携にいたるまでリウマチ学の幅広いテーマで活発な討議をしていただき、盛会で実りの多い学会となりました。また、本学会の歴代の学会長で恩師の順天堂大学塩川優一名誉教授と廣瀬俊一名誉教授のご列席のもとで主催させていただき、私にとって忘れることのできない学会となりました。

**狩野 庄吾**

第47回日本リウマチ学会総会・学術集会 第12回国際リウマチシンポジウム 会長
自治医科大学 名誉教授

第47回総会・学術集会について

第47回総会・学術集会では、越智理事長が前年に主催した学術集会のあり方を基本的に踏襲しました。すなわち国際リウマチシンポジウムを学術集会と同時開催し、学術集会を最新の研究成果を発表・討議する場、専門医の生涯教育研修の場として充実し、懇親会を意見交換の場とすることでした。

生物学的製剤インフリキシマブの関節リウマチに対する適応拡大が認可される直前の時期でもあり、シンポジウム「リウマチ薬物治療の最近の進歩」は最大の会場を準備したのに会場外にまで聴衆があふれ熱気を感じました。また、SARSのためにアジア地域に旅行すると帰国後暫く診療を行ってはいならないと勧告されて参加を取り消した海外からの国際シンポジウム演者があったことも今では懐かしい思い出です。

**井上 一**

第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 第13回国際リウマチシンポジウム 会長
独立行政法人 労働者健康福祉機構 香川労災病院 院長

第48回日本リウマチ学会学術集会（於岡山）

今学会ではわが国における抗サイトカイン療法の位置付けとRA治療ガイドラインが主要なテーマであった。前者の発案者M.Feldmannの来岡もあり、参加者は3,700名を越えた。新しいガイドラインはこれまでのRAの治療戦略を大きく一新するものであった。学会発表はPCプレゼンテーションで行なわれ、機能性と簡素性が進んだ。また、学会のあり方についてはアンケート調査による評価が導入された。

**西岡久寿樹**

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会 第14回国際リウマチシンポジウム 会長 第13回アジア太平洋リウマチ会議(APLAR)会長
聖マリアンナ医科大学 教授 難病治療研究センター長

JCRの国際貢献は緊急の課題である

国際リウマチ会議連盟(ILAR)が、現在実質的に機能を失っている現状で国際的にリウマチ学界をリードしているのは、EULAR, APLAR, ACRを中心とするPANLARの3つの連盟です。特にEULARとAPLARは国際リーグの中で最も密接に連携しながら、種々の協同プロジェクトを行っています。

シルクロード(絹の道)とパシフィックルート(海の道)をAPLAR2008のテーマとして横浜にてAPLAR2008の開催を目指し、鋭意準備を進めています。

シルクロードはEULARとパシフィックルートはPANLARとを結ぶ陸と海の道です。従って、APLARはまさに世界の中心に位置するということになります。このような状況下では、当然JCRにはより一層の国際貢献を期待したいと考えていますので、会員の方々のご理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。

創立50周年記念企画

リウマチ性疾患の診療の進歩

リウマチ性疾患は多彩な臨床症状を呈し、個々の症例でその臨床像が大きく異なることから、従来は診断が困難であった。近年各疾患の診断基準が確立され、世界共通の一定の基準で診

年	診断基準の整備	抗リウマチ薬の歴史	
		国内	海外
1929			金剤の有効性が報告
1948			サラゾスルファピリジンの有効性が報告
1956			クロロキン、ヒドロキシクロロキノンの有効性が確立
1958	関節リウマチの分類基準 Bull Rheum Dis 9:175-176, 1958		
1960			D-ペニシラミンの有効性が報告
1970			注射金剤が承認
1972			メトトレキサート低用量パルス療法の有効性が報告
1975	多発性筋炎・皮膚筋炎の診断基準 N Engl J Med 292: 403-7, 1975		
1978		D-ペニシラミンが承認	
1980	強皮症の診断基準 Arthritis Rheum 23:581-90, 1980		
1982	全身性エリテマトーデスの診断基準 Arthritis Rheum 25:1271-77, 1982		
1986		ロベンザリットが承認 オーラフィンが承認	
1987	関節リウマチの改訂分類基準 Arthritis Rheum 31:315-324, 1988	ブシラミンが承認	
1989			米国でメトトレキサートが承認
1990	血管炎の分類基準 Arthritis Rheum 33:1065-1134 (結節性多発動脈炎 Churg-Strauss症候群 Wegener肉芽腫症 過敏性血管炎 Henoch-Schonline紫斑病 巨細胞性血管炎 高安血管炎)		
1992		ミソリピンが承認	
1993			
1994		アクタリットが承認	
1995		サラゾスルファピリジンが承認	
1996			
1997	全身性エリテマトーデスの改訂分類基準 Arthritis Rheum 40:1725, 1997		
1998			米国でエタネルセプトが承認
1999		メトトレキサートが承認	米国でインフリキシマブが承認
2001			
2003		レフルノミドが承認 インフリキシマブが承認	
2005		エタネルセプトが承認 タクロリムスが承認	

断できるようになった。また、治療も疾患の病態解明が進むにつれて次々に新しい薬剤／治療法が開発された。さらに、治療による改善、不変、悪化の判断が困難であったが、活動性判定

基準が徐々に整備され、治療法の効果のみならず、各治療法間の有効性／有用性の差が明確に判断できるようになった。このようにリウマチ性疾患の診療は大きく発展してきた。

膠原病の活動性の評価方法

	RA	AS	SLE	血管炎症群
1929				
1948				
1956	Lansbury Index (Lansbury J: Am J Med Sci 232: 300)			
1958				
1960				
1970				
1972				
1975				
1978				
1980				
1982				
1986				
1987				
1989				
1990	DAS (Disease Activity Score) /DAS28 (van der Heijde D, et al.: Ann Rheum Dis 49: 916)			
1992			SLEDAI : SLE Disease Activity Index (Bombardier C, et al.: Arthritis Rheum 35: 630) ECLAM : European Consensus Lupus Activity Measure (Bencivelli W, et al.: Clin Exp Rheumatol 10: 549)	
1993			BILAG : British Isles Lupus Assessment Group (Hay EM, et al.: QJM 86: 447)	
1994		BASDAI (Bath Ankylosing Spondylitis Disease Activity Index) (Garrett S, et al.: J Rheumatol 21: 2286)		BVAS: Birmingham Vasculitis Activity Score (Luqmani RA, et al.: QJM 87:671)
1995	ACRコアセットを用いたACR response (Felson DT, et al.: Arthritis Rheum 38: 727)			
1996	DAS/DAS28を用いたEULAR response (van Gestel AM, et al.: Arthritis Rheum 39: 34)			
1997	「若年性関節リウマチの改善基準案」 Giannini EH, et al. Arthritis Rheum 40: 1202			VDI: Vasculitis Damage Index (Exley AR et al.: Arthritis Rheum 40: 371)
1998				
1999		ASAS (Assessments in AS) response (van der Heijde D, et al.: J Rheumatol 26: 951)		
2001		ASAS-20 response (Anderson JJ, et al.: Arthritis Rheum 44: 1876)	SLAM-R : Systemic Lupus Activity Measure _ Revised (Bae SC, et al.: Lupus 8: 685)	modified BVAS for Wegener granulomatosis (Stone JH, et al.: Arthritis Rheum 44: 912)
2003				
2005			BILAG2004 (Isenberg DA, et al.: Rheumatology 44: 902)	

(中)日本リウマチ学会 創立50周年記念祝辞

On the occasion of its 50th anniversary year, we would like to express our wholehearted congratulations on the progress and success of Japan College of Rheumatology. We look forward to JCR's global mission in future.

創立50周年記念に当たり、(中)日本リウマチ学会の発展と躍進に心より祝意を表し、益々のご成功と一層の国際的な役割を期待いたします。

(五十音順配列)

 **Abbott** アボット ジャパン株式会社
A Promise for Life ABBOTT JAPAN CO., LTD.

 **Eisai** エーザイ株式会社
ヒューマン・ヘルスケア企業 Eisai Co., Ltd

 **科研製薬株式会社**
Kaken Pharmaceutical Co., Ltd.


 **sanofi aventis** サノフィ・アベンティス株式会社
Because health matters


 **Santen** 参天製薬株式会社
SANTEN PHARMACEUTICAL CO., LTD.

 **SANKYO** 株式会社 三和化学研究所
SANWA KAGAKU KENKYUSHO CO.,LTD

 **田辺製薬株式会社**
Tanabe Seiyaku Co., Ltd.

 **DAINIPPON SUMITOMO PHARMA** 大日本住友製薬株式会社
Dainippon Sumitomo Pharma Co., Ltd.

 **CHUGAI** 中外製薬株式会社
Roche A member of the Roche group

 **Boehringer Ingelheim** 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

 **三菱ウェルファーマ株式会社**
Mitsubishi Pharma Corporation

50th anniversary



APLAR 2006傍聴記



APLAR 2006 (12th APLAR Congress 第12回APLAR総会・学術集会)

■開催日時 2006年8月1-5日 ■場 所 Kuala Lumpur, Malaysia



横田 俊平

横浜市立大学 小児科学講座

8月2日より5日までマレーシアのクアラルンプールにて第12回APLARが開催された。クアラルンプールは日々変貌しつつある都市である。真新しいコンベンションセンターは旅行案内書「地球を歩く」の最新版にも掲載されていなかった。マレーシア全体で約60名というわずかな人数のリウマチ医が、今回の学会の準備に当たったそうだが、若いYeep先生を中心にたいへんよく企画された学会であった。わが国からも100名以上が参加し(総参加者約2,000名)、各会場で活発な議論が繰り広げられていた。

マレーシアは多民族国家である。本来のマレーシア人、中国系、インド系のマレーシア人がそれぞれの顔で街を歩いており、またアジアは広い、ということを実感する学会でもあった。西岡APLAR会長のオープニング・リマークスに始まった学会は、キルギスタン、ウズベクスタンなどの中央アジア、イラン、イラクなどの西アジア、中国、韓国、日本などの東アジア、シンガポール、インドネシアなど南アジアの人々の参加が得られ、出身国に関わりなく英語が学会の公用語として機能していた。アジアは大きくこの4地域に分けられ、それぞれが独自性を発揮しつつAPLARを構成することで、EULARやACR(PANLAR)にない魅力を創り出すことができる、という西岡APLAR会長の言葉が印象的であった。

プログラムはたいへん多岐にわたり、午前中前半はそれぞれの分野の第一線の研究者・臨床医による口演で、初日はMainiやLipskyによるRAのサイトカイン遮断薬開発の経緯など、2日目はSLEを中心としてIsenbergやLauなどによる

発症病理の進歩、3日目は骨粗鬆症のアジアにおける意味、4日目は自己免疫疾患について、などが行われた。午前中後半から夕方までは7~8のセッションに分かれ、4日間でもリウマチ性疾患全体を見渡せるよう企画されていた。

JCRは今回初めてエグジビション会場にブースを出店し、JCR2007のプロモーションを行った。学会事務局の森田さんの獅子奮迅の活躍により、ブースを訪れ記帳された参加者は500名以上にのぼった。EULARやACRもブースを出店しており、竹内国際委員長の決断は時宜に叶ったものであった。

用意した900部の「Modern Rheumatology」は開会2日目にはすべてなくなり、日本のリウマチ学への関心の深さが窺われた。

今回、小さな出来事ではあるが今後重要な事柄として、アジア太平洋小児リウマチ学会(APAPR)が、APLARの傘の下に結成される運びとなった。設立メンバー国として14カ国が集まり、横田JCR-APLAR委員が取りまとめを行い、APLAR2008(横浜)には各国の小児リウマチ学の現況を報告することで合意された。EULARのPreS、ACRのAPRについて、アジアでもようやく小児リウマチ学の協同研究を行う母体が形成された意義は大きい。



『EULAR 2006』に参加して

Annual European Congress of Rheumatology
2006.6.21~24 Amsterdam, Netherlands

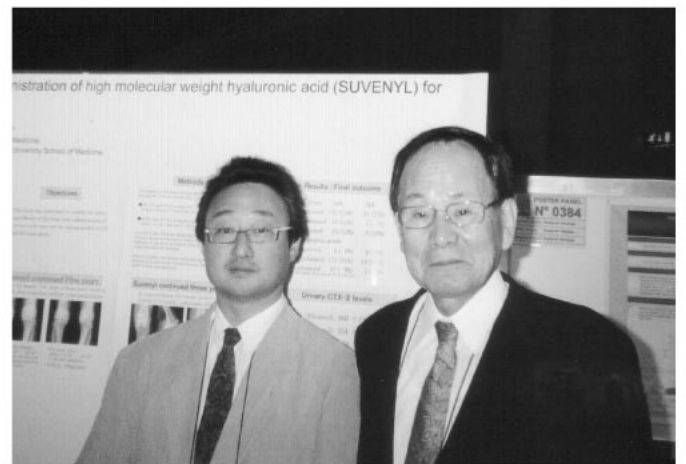
近畿大学医学部堺病院 整形外科 菊池 啓



アムステルダムは小粋で伝統がありながら小さな街で、スキポール空港からRAI会場へも近く、ほとんどの関係者はトラムに乗って集まった。駐車場や街中に生物製剤のCMポスター (Targeting therapy) が貼られ、サッカーワールドカップ (W杯) よりもRA治療で盛り上がり (?), EULAR 2006は例年通り長蛇の列の受付で始まった。

世界各国、RA寛解を目指し早期強力生物製剤治療 (副作用の危惧多い) が隆盛の中、日本が世界に先駆け、そして誇る高分子ヒアルロン酸 (HA: 副作用の危惧少ない) 治療ブースが多く設けられていた。W杯で優勝したイタリアがHA先進国であることは、関節機能に対する国民的意識の高さと関係したのかもしれない (日本は体格差があり、MTXやIFN量も少ない民族)。WHO21世紀初コンセプト (bone and joint decade) が整形外科医の範疇を超え全RA医に広まり、早期から関節破壊 (免疫反応: 悪循環の場合) 抑制がRA治療の目標となってきた。

シンポジウムでもP. Garnero はCTX-2 (350 ng/mM Cr以下が目標)、F. Eckstein はMRI (Cartilage loss 1%以内/2年が目標) で評価することを推奨していた。今後これらのマーカーや画像が患者疾患予後説明の一助となるであろう。確かにRA治療の理想は早期診断早期治療であるが、現実の臨床の場で遭遇する関節症は進行したものが多い。今回、私達は進行した関節症 (OA and RA) に対する生理学的分子



量HAの有用性 (TKA time saving, CTX-2抑制効果など) を報告したことは、結構タイムリーであった (写真)。しかし、日本におけるCTX-2測定は保険適応されておらず、限られた施設でしか測定できていないことは残念である。

今後は、テクニックを持ちながらも、切らずに治す (進行させない) 整形外科を目指したい (恩師、田中教授の勧め)。EULARは手術部門もあり、ACRとは異なる雰囲気、何より街を観るだけでも『来年 (バルセロナ) もがんばろう!』とさせる魅力がある。また余談かもしれないが、EULARでは日本では健康食品であるグリコサミン、コンドロイチン硫酸の臨床有効性も取り入れられていた。

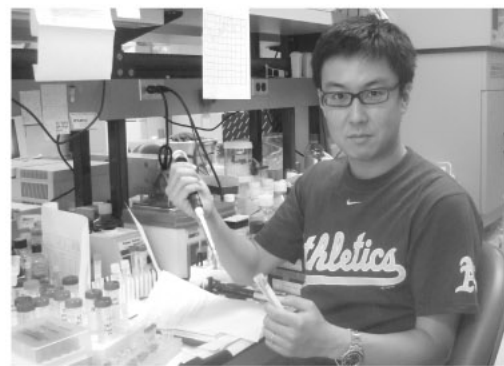


UC Davis留学記

2004年11月よりカリフォルニア大学デービス校 (University of California, Davis) に勤務しています。連日気温が40℃を超える熱波に見舞われたカリフォルニアで、日々ガレクソンとインテグリンの研究に取り組んでいます。

初期研修を終えて大学院に入学し、臨床リウマチ学のトレーニング及び基礎研究を開始した頃から私は“臨床医が基礎研究を行う意義、理由”についてずっと考えていました。そしてこの留学はそのことをじっくり考えるよい機会となりました。医師が研究を行う意義としてよく耳にするのは、病態の本質を見据えて治療に生かす科学的な思考を身に付けることができる、といったところでしょうか。また医師は実験対象を個体レベルで捉えて理解できるという利点があるとも言われます。私も今までに臨床、研究のどちらも超一流である先生方を数多く見てきましたし、歴史を見てもphysician scientistが医療の発展に果たした役割は非常に大きいものがあります。その一方で、臨床と研究の真の両立は不可能であり一流を目指すならどちらかを選ばなければならない、という意見もあります。某テレビドラマに登場した“ウナギの手術しかしたことの無い外科教授”に象徴されるように、研究に熱心すぎる臨床医は世間から必ずしもよい目で見られているとは限りません。

最近そのことをテーマとした講演を聴く機会がありました。話の中で印象に残ったのは「研究を行う医師の多くが研究成果の臨床への還元という高い理想を持ってはいるが、最近のサイエンスは実際の臨床現場での問題とはかけ離れた問題を扱うことが多くなっている。そのため、ベンチとベッドサイド、研究者と臨床医とのギャップが大きくなっており、結果として医師の研究離れが進んでいる」という点でした。演者はそのギャップを埋めるphysician scientist養成の重要性を訴えていましたが、上記の問題は確かに存在すると思います。直ちに臨床の現場にフィードバックできるような研究成果を収めることができれば大きな喜びが得られることは間違いありませんが、それは容易なことではありません。医師の研究



神戸大学大学院医学系研究科 臨床病態・免疫学
三枝 淳

離れは全米の傾向だそうで、NIHはその対策としてM.D.を優遇したグラントを設立したりしています。私の研究室のポストもこの問題を憂慮しており、講座のchairである彼は臨床研修中のレジデントが一定期間基礎研究に従事する制度を作りました。多くがPh.D.を持っている彼らは研究に関する知識も豊富で楽しそうに実験をしています。しかしよく聞いてみると、今後も研究を続けたいという希望を持っている者はほとんどいません。一人だけその期間を過ぎても毎日夕方からラボにやってきて実験を続け、もうすぐ別の場所で自分の研究室を構える秀才がいますが、彼のような例は稀のようです。理由は様々で給与の問題などもありますが、厳しさを増すNIHグラントのことを挙げる者もいます。アメリカのサイエンスを支えているのが非常に競争的な研究助成金制度ですが、その獲得如何で研究者の生活は大きく左右されます。UndergraduateとMedical schoolへの進学はもちろん、よりよい病院の研修医、フェローのポジションを得るために激しい競争を続けてきた彼らは、果てしなく続くグラント獲得競争からは解放されたいのでしょうか。

私は大学院卒業後、一般病院に赴任しリウマチ・膠原病臨床一筋の生活を2年半送りました。そして現在の研究生活に至ります。まだ臨床と研究の間を往来しているだけでphysician scientistの域には遠く及びません。しかし様々なチャンスを与えていただいたおかげで自分の中ではっきりと確認できたのは、臨床も研究もどちらもやりがいのあるとても楽しい仕事だということです。UC Davis Medical Centerの位置するサクラメントはゴールドラッシュの狂乱とともに発展した町です。1848年にサクラメント郊外のアメリカンリバー上流で金塊が発見されたことからゴールドラッシュは始まりました。ベッドサイドから一年以上離れた寂しさはありますが、今は週末に仲間たちとカヤックを操りその川を下りながら翌週の実験プランを思い浮かべる生活がとても気に入っています。

委員会だより

本年度の理事会および各委員会報告

2006年6月16日～9月1日まで開催された理事会および各委員会は右記のとおり

6月16日(金) 第2回(通算144回)MR編集委員会
6月28日(水) JCRニューズレター第11号編集小委員会
6月30日(金) 第2回JCR国際委員会
第2回JCR2007プログラム委員会
7月4日(火) 第1回JCR特別委員会
7月7日(金) 第2回JCR理事会
7月22日(土) 第2回RA疫学調査委員会

8月9日(水) 第1回JCR専門医資格認定委員会
8月10日(木) 第1回JCR選挙管理委員会
8月23日(水) 第1回JCR情報化委員会
8月25日(金) 第1回JCR教育施設認定委員会
第2回JCR小児リウマチ委員会
8月29日(火) 第2回JCR特別委員会
9月1日(金) 第3回JCR理事会
第4回JCR専門医制度委員会

JCR理事会報告

(中)日本リウマチ学会理事会 小池 隆夫 理事長

2006年度第2回(中)日本リウマチ学会理事会を7月7日(金)開催し、次の事項を審議決定した。

1. 本年4月長崎で開催した2006年度定時評議員会、社員(会員)総会において、2005年度決算報告に於いて、第49回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会の収支決算報告について質疑が交わされた。なお、不明確な点があるということから「特別委員会」を設置して事実調査を行うことが決定された。これを受け5月21日(日)、臨時理事会を召集し当該学術集会の運営を担当したコンベンション会社を招聘し事情確認を行った。なお、事実の調査を行うために澤井高志理事を委員長とし、部内委員4名、部外委員2名(弁護士、公認会計士)及びオブザーバーに理事長を当てるメンバーを決定した。
2. 第1回特別委員会を7月4日に、日本リウマチ学会事務局において開催し、当該会長を選任して以来の経過を確認したことが口頭報告され、また、次回は当事者の出席を求めて事実確認を行う予定であることが述べられた。
3. リウマチ専門医の認定試験問題作成委員が専門医資格認定委員会から推薦され、これを承認した。
4. 要望事項
肺動脈性肺高血圧症における治療薬クエン酸シルデナフィルに関する要望を厚生労働省に提出することを決定した。
5. 第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会(長崎)結果の中間報告が、同学術集会事務局長川上純先生より理事会に報告された。
6. 第51回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会の収支予算概要が龍順之助会長より報告され、予算総額1億4千200万円が承認された。これに伴い4日間のスケジュールが報告された。
7. 第52回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会(会長小池隆夫、北海道)の日程が2008年4月20日(日)～23日の間、札幌市で開催することが報告され承認された。
8. 2006年度の事業行動計画が各委員会から報告された。(計画は委員会報告参照)
9. その他、学会賞の規約、役員を選任方法、評議員制度の見直し等の検討が必要ではないかとの提案があり将来構想委員会において検討し、次期理事会での重要課題として引続き継続的に審議していくことにした。

以上

2006年度第2回理事会出席理事(敬称略、順不同)

理事長/小池 隆夫、副理事長/龍 順之助

理事/石川 斉・井上 和彦・猪熊 茂子・尾崎 承一・澤井 高志・竹内 勤・田中 良哉・三森 経世・村澤 章

なお、2006年度第3回理事会が、9月1日(金)、(中)日本リウマチ学会事務局同居ビル4階会議室で開催された。

JCR MR編集委員会報告

JCR学会誌MR編集委員会委員長 三森 経世 理事

1. 海外購読会員のクレジットカードによる会費払制度導入を持回審議で決定
今春の長崎JCR大会で会員内規が改正され、海外の購読者が国際購読会員として本学会に入会し易い環境が整備されたが、入会申込者の購読料送金に際して、クレジットカードでの支払希望が続出した。このため、従来の郵便為替や銀行振込による会費納入システムに加え、クレジットカードでも支払いを可能とする決済システムの導入を委員会で決議し、理事会に諮った。
2. MRの全論文検索システムが稼働
学会誌MRのMEDLINE取扱いが16-1号からなされた。今後のImpact Factor取得を目指し、MR掲載論文の引用率向上をはかるため、投稿者がMR論文を容易にキーワード検索できるシステムの開発をJCR情報化委員会の協力で実現、8月23日付で検索機能導入を会員に案内し、協力を呼び掛けた。
3. MR論文査読の完全オンライン化を検討
MR投稿論文の査読過程と出版までの期間短縮のため、論文査読完全オンライン化を検討している。J-Stage査読システムは6月の委員会でデモが行われ、Blackwell社のManuscript Centralは次回の編集委員会でのプレゼンテーションで吟味検討される運びである。

JCR学会誌MR編集委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

副委員長/住田 孝之

委員/石ヶ坪 良明、織田 弘美、金井 芳之、高岸 憲二、田中 良哉、中村 孝志、山中 寿、山村 昌弘

JCR医学用語委員会報告

JCR医学用語委員会委員長 猪熊 茂子 理事

2006年7月24日に、日本医学会用語委員会が開かれた。

日本医学会医学用語集には12万語が収載されており、これを傘下の各学会に割振り、現在妥当とされる用語に直す作業、及び、未分類で残った2万語から各学会が自領域の語を拾い出して同様の作業をすることなどが求められた。

新電子版リウマチ用語集は、検討作業が一旦終了し、現在校閲作業中。これを基に整合作業をする予定。

リウマチ用語集の漢字には、なるべく本字(旧字)を残す方針。

現在頒布中の日本医学会用語集掲載のリウマチ関連用語は、当委員会から見ると少なからず問題が見られることが判明。

委員で検討した結果を医学会に報告予定。

JCR医学用語委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

副委員長/能勢 真人

委員/大島 久二、加藤 智啓、武井 修治、谷 憲治、桃原 茂樹、山口 晃弘

JCR専門医制度委員会報告

JCR専門医制度委員会委員長 田中 良哉 理事

2006年度第4回JCR専門医制度委員会を9月1日開催した。

1. リウマチ医研修教育打ち合わせ会議の報告がなされた。日本リウマチ学会は、日本専門医認定機構に属するSubspecialtyの学会として、リウマチ科の専門医制度を担当し運営するとの基本方針が再確認された。
2. 専門医資格維持施行細則の改正について、一部の混乱を解消するために、会員に再通知されたと報告された。
3. TV講演取得単位の上限設定について理事会に答申した。
4. 日本整形外科学会認定リウマチ医の特例によるリウマチ専門医募集、及び、専門医制度と財団登録医との関係について審議し、理事会

決定を経て施行するとした。

5. 2006年度事業計画の遂行については、持ち回り審議を経て実践することとした。

JCR専門医制度委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

副委員長/石川 斉

委員/石黒 直樹、岩本 幸英、尾崎 承一、竹内 勤、浜西 千秋、横田 俊平

JCR教育施設認定委員会報告

JCR教育施設認定委員会委員長 岩本 幸英 理事

2006年度JCR教育施設認定委員会が8月25日(金)に開催し、2006年度教育施設の新規及び継続施設の審査を行った。

教育施設認定作業の経緯

- (1) ホームページ、メールマガジンで4月下旬に、またニュースレターNo.9号(2006年3月中旬発行)に掲載した。
- (2) 更新該当施設については、5月初旬に各施設宛個別に通知した。
- (3) 本委員会に先立ち、地区毎に各地区代表委員による事前審査が行われた。

審議事項(2006年日本リウマチ学会教育施設認定委員会)

1) 審査方法の確認

- (1) 教育施設の認定条件は、日本リウマチ学会専門医制度規則第10条に基づく。指導医1名以上、専門医2名以上が勤務していることが条件であるが、専門医は定期的に(2回/月以上)勤務する非常勤医を含めることができる。
- (2) 審査実施要項は、日本リウマチ学会専門医制度規則第4章および第7章の基準に基づく。各地区(支部)の担当委員にあらかじめ資料を配付してチェックをうけ、8月25日の教育施設認定委員会(審査会)に持ち寄り審査を行った。

2) 更新・新規施設の審査・認定

本年度、審査の対象となったのは、更新78施設(うち専門医や指導医の異動に伴う施設辞退4施設)、新規41施設であった。各地区(支部)の担当委員により事前審査結果が報告され、全員で認定の可否について討議した。

- (1) このうち、新規申請の41施設は、施設の規模・教育環境の整備・教育体制(スタッフ)・定期的教育計画も作成されており、教育施設としての条件を満たしていることから、全施設を認定した。
- (2) 更新対象の78施設については、4施設が指導にあたるスタッフの異動により辞退、1施設が非常勤の指導医が2名いるのみで、認定条件を満たさず不承認、その他の73施設は条件を満たしていたので承認となった。
- (3) 今回は、病理検査室を備えていないと回答した施設に対しては、更新・新規を問わず、どのような代替の方法を講じているか説明を求めた。その結果、認定されたすべての施設が、大学病院の病理学教室との連携などの方策を講じていた。
- (4) 昨年の委員会で、山梨、滋賀、和歌山、沖縄の4県で認定教育施設が1施設のみであることが問題にされた。そこで各地区の支部長から、各県の主だった施設に対し、認定施設申請を働きかけた。その結果、山梨、沖縄の両県で認定教育施設が複数になった。滋賀、和歌山については、引き続き近畿支部からの働きかけを行う。

4) 今後のスケジュール

平成18年9月1日の理事会で、委員長より本委員会の認定案を説明し承認されたので、9月1日付で2006年度教育施設として認定される。認定された教育施設には、理事長名で認定証が交付される。なお、認定書が各施設に届くのは9月中旬頃の予定である。

JCR教育施設認定委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

副委員長/横野 博史

委員/近藤 正一、齋藤 知行、佐々木 毅、塩澤 俊一、宗園 聡、廣畑 俊成、福田 孝昭、松本 美富士、三浪 明男、村澤 章、山本 晴康

JCR国際委員会報告/JCR-APLAR委員会報告

JCR国際委員会委員長 竹内 勤 理事

1. 第16回国際リウマチシンポジウムの募金趣意書を持ち回りで了承した。(JCR国際委員会の予算どおり、2050万円の募金を開始)
2. 第12回APLARマレーシア大会が8月1-5日に開催されたので、小委員が報告する。
3. APLAR総会・執行委員会に提出された収支報告書と決了解事項一覧をJCR国際委員会の持ち回り審議で了承した。
4. 国際会員による入会金払込にクレジットカードでの会費払方式導入を持ち回りで了承した。

JCR国際委員会APLAR小委員会報告 横田俊平 理事

JCR国際委員会と理事会の決定に従い、次の事業と企画を実行した。

1. 2006JCR sponsored symposiumを8月3日に成功裡に主催した。
 2. JCR-APLAR若手海外発表奨励奨学金を17名に供与し、全員がポスター発表した。
 3. JCR初の海外展示ブースをクアラランブルで出展し、大成功を収めた。
 4. 海外48カ国・地域からJCR展示ブースを訪れた約500名はJCR2007、MRに大注目した。(17ページ参照)
 5. 合計10カ国の13名がJCR展示ブースで、入会申込書に署名、申請した。
 6. 日本からのAPLAR大会参加者が、100名を超えた。(全体で2180名)
- APLAR2008横浜大会へ多大の関心が示された。

JCR国際委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

副委員長/横田 俊平

委員/石黒 直樹、木村 友厚、久保 俊一、住田 孝之、山中 寿、山本 一彦

JCR情報化委員会報告

JCR情報化委員会委員長 澤井 高志 理事

情報化委員会を8月23日に開催し、次の決定・了解を行った。

A. JCR専門医単位認定のリウマチ学会TV講演の開始

1. 長崎大会のJCR生涯教育委員会による12推薦演題を受け、JCR情報化委員会が動画配信ビデオの学会TV講演化を完成させた。JCR専門医制度委員会の検討吟味により、12演題リウマチ学会TV講演が専門医単位認定の対象講演として認められ、9月15日を目処に、本格的なJCR学会TV講演が開始され、12月末まで3ヶ月半、放映予定である。
2. 学会TV講演の受講料は、アニュアルコースレクチャーやJCR全国中央教育研修会への受講料や参加経費(交通費宿泊費など込で1講演当たり6千円の出費)を勘案し、1TV講演あたり3千円とすることを了承した。
3. リウマチ学会TV講演で取得可能な単位数の上限設定は、JCR専門医制度委員会が9月1日の会合で決定するが、撮影編集制作経費

委員会だより

- を負担するJCR情報化委員会としては、12本放映中の7講演7単位までを単位申請できるとする意見が持ち回り審議で集約された。
- 各6支部による地域教育研修会で推薦されたリウマチ学会TV講演向けの演題は9月2日の近畿支部から12月9日の関東支部まで、計10演題が収録され、1月から4月の学術集会までの4ヶ月間、単位認定対象TV講演として放映予定である。
 - 学会誌MRの検索システムを開発発注**し、学会誌MR編集委員会とJCR情報化委員会による吟味検討を経て、8月23日付で導入を決定した。
 - 学会全体の電子化、情報化**の観点から、また、会員の利便性確保の観点から、会費納入方法として、**クレジットカード決済の導入**を決め、理事会上に諮問することを決定した。

JCR情報化委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

副委員長/竹内 勤

委員/天野 宏一、久我 芳昭、関 雅之、高林 克日己、坪井 紀興、中村 洋、針谷 正祥、益田 郁子、桃原 茂樹

ニュースレター小委員会 委員長 天野 宏一、委員 諏訪 昭、田中 真希、中島 亜矢子

JCRレフルノミド肺障害調査委員会報告

JCRレフルノミド肺障害調査委員会委員長 猪熊 茂子 理事

全例調査票と各主治医への問い合わせ結果より纏められた検討の結果を執筆中。調整ロジスティック解析等の結果より、高齢、既存の間質性肺障害が危険因子であること、内服を中止して1ヶ月以降でも発症し得ること、画像は原病合併の間質性肺炎とは分布が異なるGGO(スリガラス影)/浸潤影であること、組織学的にはDAD(びまん性肺胞障害)が活動相、器質化相とも見られること、末梢血リンパ球数の低下を伴うことが明らかとなった。更に、調整ロジスティック解析で有意差は出ないものの、初期高容量投与 (loading dose) を行った例にLF肺発症が多い傾向が見られた。男性、喫煙例にLF発症は多いが、危険因子とされる既存の間質性肺障害との交絡による。

JCRレフルノミド肺障害調査委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

委員/大塚 毅、佐伯 行彦、佐川 昭、佐藤 健夫、沢田 哲治、竹内 勤、松田 剛正

JCR小児リウマチ委員会報告

JCR小児リウマチ委員会委員長 横田 俊平 理事

第11回JCR小児リウマチ委員会が8月25日(金)開催され、下記の議案について審議した。

- 小児リウマチ専門研修医制度について**
 - 平成19年度からの小児リウマチ専門研修医の募集
 - 研修制度の必須書類の整備
 - ①専門医制度規則、②研修カリキュラム、③研修マニュアル、④指導マニュアル、⑤資格認定基準、⑥指導者認定基準(指導責任者、指導担当者)
 - ⑦施設認定基準(研修施設、関連施設)、⑧研修記録用紙(経験症例、経験検査・処置、経験手術、その他)
 - 専門医の認定のためにはきちんとした専門医認定の規則を定める必要がある。今後、上記①~⑧の書類については、本委員会内で内容の検討を十分に行っていく。
 - 小児科学会専門医+リウマチ学会専門医について：現在40名(2006.8.25現在)
- リウマチ性疾患全般のHLA検査について**
 - 横浜市大で倫理委員会承認、検体採取開始。他施設でも準備段階。
- 適応外抗リウマチ薬認可の進捗状況**
 - 厚労省班会議“小児リウマチ性疾患適応外医薬品の用法・用量に関する研究”MTX、シクロホスファミド静注薬の2品目が昨年度検討品目に指定。
 - その他の薬剤に関しては、小児リウマチ学会の薬事委員会で候補品目の選定、使用実態調査を依頼。
- 本委員会での共同調査プロジェクトの方向性**
 - JIA、小児SLE調査結果の論文化
 - 不明熱の検討
 - トシリズマブ治験に参加を予定したS-JIA患者の中に、白血病・腫瘍・周期性発熱症候群が含まれていた。今後、トシリズマブが一般使用されるようになると問題となる可能性がある。このため不明熱・周期性発熱を示す患者の調査が必要。調査対象は、入院施設を持った病院全部に9月中アンケートを送る予定。
- APaPR (Asia-Pacific Association of Pediatric Rheumatology) の設立について**
 - 8月のAPLARに於いて、APaPRを作ることが提案された。2008年のAPLAR横浜で正式に設立へ。この時期に合わせて、何らかの研究・検討を行いたい。
 - 名簿の作成(日本の小児リウマチ専門医も含む)が急務

JCR小児リウマチ委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

委員/伊藤 保彦、今川 智之、武井 修治、富板 美奈子、藤川 敏、村田 卓士、森 雅亮

JCR PMS委員会報告

JCR PMS委員会委員長 小池 隆夫 理事長

- 抗リウマチ薬事後特別調査委員会(略称:エタネルセプトPMS委員会)は前回、NLで報告以来、毎月1回のペースで会合を重ね、10回目の会合が9月1日午後6時半に開かれた。
- 他方、合計11回の会合を2005年4月までに開催したレフルノミドPMS委員会は、2006年前半期に少人数の検討会2回を経て、9月1日に新アラバPMS委員会として、再開された。

JCR PMS委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

委員/石黒 直樹、井上 和彦、竹内 勤、田中 良哉、針谷 正祥、山中 寿、龍 順之助

JCR特別委員会報告

JCR特別委員会委員長 澤井 高志 理事

2006年度定時評議委員会、総会に於いて提案された特別(調査)委員会の設置を、5月21日(日)開催の臨時理事会で決定し、部外委員2名を含む8名のメンバーで第1回特別委員会を7月4日(火)、第2回特別委員会を8月29日(火)に開催した。

JCR特別委員会の委員は以下のとおり。(敬称略、順不同)

部内委員/三森 経世、龍 順之助、宮坂 信之、勝呂 徹

部外委員/小笠原 彩子(弁護士)、田中 義郎(公認会計士)

オブザーバー/小池 隆夫

JCR選挙管理委員会報告

JCR選挙管理委員会委員長 松井 宣夫

2006年度第1回JCR選挙管理委員会が8月10日(木)に開催された。

主要議題は、本年度実施される第3期理事候補者選挙の実施要領について打合せ会議を行ったもの。

「役員選任内規」(2003年度制定)の確認および定款、内規に規定のない事項について選挙管理委員会に委ねられた内容について検討した。その主要事項は、立候補資格の確認、立候補届の方法、選挙日程、投票の方法(投票用紙の書式含む)等について、9月1日開催の理事会に諮り下記の通り決定した。

第3期理事候補選出選挙の全般日程

平成18年9月1日

JCR選挙管理委員会

理事候補者は、評議員の立候補制による選挙で選出し、社員総会において選任する。

監事の選任は、理事会で候補者を推薦し、評議員会・社員総会で選任する。

但し、監事の任期は4年であることから引続き2年間就任する。

理事選任日程

- 1) 選挙管理委員会の発足 7月7日(金) 理事会で承認・設立
8月10日(木) 第1回選挙管理委員会
- 2) 選挙人の確定 9月1日(金)
在籍の評議員 (9月1日現在753名)
被選挙人の資格《平成19年4月1日現在 年齢66歳未満の立候補者》
(昭和16年4月2日生以降)
- 3) 理事選挙立候補者の公募 10月1日(日) 選挙要領・立候補届けの案内発送
- 4) 立候補締切り 11月30日(木) 立候補者の確定
- 5) 選挙公示(投票日の1ヶ月前) 12月22日(金) 立候補者一覧名簿、投票用紙発送
- 6) 投票日及び締切り 2月2日(金) 投票締切日の消印有効
- 7) 開票・当選者の確定 2月9日(金) 《選挙管理委員立会により開票》
- 8) 臨時新理事会 2月23日(金) 新理事長の互選
- 9) 理事の選任 4月27日(金) 第51回学会・社員総会で選任

役員の数

理事 16名(全国選出理事10名、支部選出理事6名)

監事 2名(役員選任内規第2・3・18条) *今回は改選なし。

JCR選挙管理委員は下記のとおり(敬称略、順不同)

委員/金井 美紀、西郷 嘉一郎、鈴木 昌彦、坂野 章吾、森 雅亮

JCR展示ブースを訪れた参加者・訪問者集計

(APLAR2006マレーシア大会/第12回APLAR総会・学術集会)

2006年8月2日午前10時—8月4日午後4時の期間中、クアラルンプール国際展示場のA-109に出展したJCR展示ブースを訪れた各国・地域参加者は、以下の通り。(この内、10カ国の13名がJCRに入会を即決)

ヨーロッパ 15カ国 40名	イギリス ラトビア	6	チェコ ドイツ	1 4	ギリシャ スイス	3 3	ハンガリー フランス	1 3	オーストラリア スペイン	2 1	リトアニア	3	オランダ	2	ポーランド	2	ルーマニア	4	ロシア	4
北米・中南米(アメリカ大陸) 4カ国 6名	米国	3	カナダ	1	ブラジル	1	メキシコ	1												
アジア太平洋 26カ国 459名	日本	62	韓国	14	中国	56	香港・中国	4	台湾	4	サウジアラビア	16	カタール	1	UAE	1	イラク	1	イラン	17
	クウェート スリランカ	2 9	カザフスタン タイ	1 42	キルギスタン トルコ	1 12	マレーシア ベトナム	107 3	パキスタン オーストラリア	5 5	バングラデシュ ニュージーランド	18 2	インドネシア	42	シンガポール	3	インド	10	フィリピン	21
アフリカ 3カ国 3名	エジプト	1	ナイジェリア	1	カメルーン	1														

合計48カ国・地域 508名

APLAR2006総会・執行委員会の主な決定事項

1. APLAR会長職が任期2年終了で8月5日付にて西岡久寿樹会長(2004-2006)から香港のC.S.Lau教授(2006-2008)に引き継がれた。
2. 次期会長(2008-2010)に韓国のHo-Youn-Kim教授が選出された。
3. C.S.Lau新会長下のAPLAR会計役員(財務代表)にマレーシア・リウマチ学会会長のDr.Yeap Swan Simが選出された。
4. APLAR事務局長職が任期満了に伴い、オーストラリアのDr. Kevin Pile(2004-2006)からインドのDr. Rohini Handa(2006-2008)にバトンタッチされた。
5. APLAR副会長の高柳広教授(2004-2006)が副会長に再任された(2006-2008)。
6. 更に、APLAR 西岡久寿樹会長が日本からもう一人、国際的な感覚があって将来APLARに貢献できる有望な人物をAPLAR執行委員会メンバーに加えるように求め、互選で、APLAR新役員に選ぶように要請し了承された。
7. APLAR2006(第12回APLARマレーシア大会)は、参加者人数や参加国・地域数において、過去最大級の規模になる見通しと開催前の総会でAPLARマレーシア組織委員会のDr.Yeap Swan Sim会長から報告された。(参加者2000人、45ヶ国・地域)
8. APLAR2008開催の基本的ポリシーとして2008年は開催国の横浜で行うが、その際APLRA加盟国が全体で学会を運営する。いわゆる「APLAR world」がホストする「Medical EXPO APLAR 2008」という新しい試みで西岡会長のChairのもとに行うことが提案され承認された。
9. APLAR2008(第13回APLAR横浜大会)の準備が組織面、資金調達面、300名の招聘者数規模、WHO支持取付面、EULAR、PANLAR(ACR)、APLARの関与参加面などで順調に進展していることがAPLAR2008の西岡久寿樹会長から報告され、了承された。
10. 第14回APLAR総会・学術集会(2010)の開催地には、3候補地(フィリピンのセブ島、インドネシアのバリ島、中国の香港島)による各プレゼンテーションと決選投票の末、香港に決せられた。
11. APLAR恒久事務局機能を構築・確定する一環として、日本を中心に、Dr. Lau新会長及びDr.Handaと提携し具体的な実務を推進することが了承された。
12. APLARのWeb会議を活用し、常設ホームページ、電子ニュースレター、学会誌APLARジャーナルなど各メディアの充実を図る。
13. APLARの収支黒字額が2002年当時の規模から2006年には倍増した会計報告書が承認された。
14. APLARの各SIGグループ活動及びスポンサー調達調整活動を恒常的に拡充してゆく方針が再確認された。



Worldwide Presence

「地球」という、かけがえのない惑星に生まれた
一つひとつの健康な生命、一人ひとりの幸福な人生のために。
アボット・グループは、世界を舞台に革新的な製品の研究開発、
製造、マーケティング、そしてサービスの向上に力を注いでいます。



アボット ジャパン株式会社

医薬品事業部 大阪府中央区城見2-2-53
<http://www.abbott.co.jp>

 **Abbott**
A Promise for Life



JCR2007



第51回日本リウマチ学会総会・学術集会
第16回国際リウマチシンポジウム

The 51st Annual General Assembly and Scientific Meeting of
Japan College of Rheumatology
The 16th International Rheumatology Symposium

リウマチ学会2007

会長 龍 順之助 [日本大学医学部整形外科 主任教授]

次なる半世紀に向けて

リウマチの病態解明と治療の新たな挑戦

2007年4月26日[木] - 29日[日]

April 26-29, 2007

パシフィコ横浜

Yokohama, JAPAN

事務局

日本大学医学部整形外科学教室 〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1 TEL: 03-3972-8111 (内線2492) FAX: 03-5966-8644

第1回JCR全国中央教育研修会 大阪大会開催

8月20日大阪国際会議場において、第1回JCR全国中央教育研修会大阪大会が開催された。今回の中央教育研修会は、4月のJCR学術総会前に行われたアニュアルコースレクチャーに続きJCR主催の教育研修会として開催されたもので、学術総会に参加できなかった学会員にも全国規模の教育研修会に参加することで、リウマチ専門医としての専門性の資格維持、日進月歩の知識の習得を目的としている。

当日は全国38都道府県から約250名の事前参加申込があり、残暑厳しき折にも拘わらず、その殆どが参加。プログラムは内科系4、整形外科系2、小児科系1の計7演題で構成され、リウマチ性疾患に診断、画像、治療につき、それぞれの分野のエキスパートによるレクチャーが行われた。参加者からは質問が相次ぎ、演題終了後も活発な意見交換が行われた。

今回は12月3日に舞台を東京に移し行われる（プログラム詳細は22ページに掲載）。

申し込みは21ページの「JCR2006 全国中央教育研修会 東京大会参加申込書」、または学会ホームページ(<http://www.ryumachi-jp.com>)から申込書をダウンロードの上、必要事項を記入し、E-mail、FAXまたは郵送で(中)日本リウマチ学会事務局宛に送付。

(送付先)

〒105-0001 東京都港区虎の門1-1-24 第一オカモトヤビル9階
(中)日本リウマチ学会 事務局
電話：03-5251-5353 FAX：03-5251-5354
E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com



2006年度全国中央教育研修会 東京大会

主催 有限責任中間法人日本リウマチ学会
開催日 2006年12月3日(日)
時間 9:30 - 17:40
会場 日本医師会館
〒113-0021 文京区本駒込2-28-16
TEL: 03-3946-2121(代表)
FAX: 03-3946-6295

執行機関 JCR生涯教育委員会(尾崎承一委員長)
JCR全国中央研修会大阪大会 実行委員長 尾崎承一
実行副委員長 中村耕三

演者名 (講演順、敬称略)
江口勝美、竹内 勤、猪熊茂子、高杉 潔、勝呂 徹、
米延策雄、横田俊平

参加人数 500人(予定)
参加料 5,000円
単位 7

申し込み・問い合わせ 有限責任中間法人日本リウマチ学会
〒150-0001 東京都港区虎の門1-1-24第一オカモトヤビル9F
TEL: 03-5251-5353 FAX: 03-5251-5354

プログラム
開会挨拶 (9:30 - 9:35) JCR生涯教育委員会委員長 尾崎承一
講演1 (9:35 - 10:35)
「早期リウマチの診断と関節破壊の予知」
座長: 尾崎承一
聖マリアンナ医科大学・リウマチ膠原病アレルギー内科 教授
演者: 江口勝美
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析制御学講座(第一内科) 教授
講演2 (10:35 - 11:35)
「生物学的製剤の最近の知見」
座長: 山本一彦
東京大学大学院医学系研究科アレルギーリウマチ学 教授
演者: 竹内 勤
埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科 教授

講演3 (11:35 - 12:35)
「膠原病の難治性病態」
座長: 住田孝之
筑波大学大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻
臨床免疫学 教授
演者: 猪熊茂子
都立駒込病院アレルギー膠原病科 部長
休憩 (12:35 - 13:35)
講演4 (13:35 - 14:35)
「RAと鑑別を要するリウマチ性疾患」
座長: 尾崎承一
聖マリアンナ医科大学・リウマチ膠原病アレルギー 内科
教授
演者: 高杉 潔
道後温泉病院リウマチセンター 理事長
講演5 (14:35 - 15:35)
「リウマチ性疾患の画像診断」
座長: 宗園 聡
近畿大学整形外科 教授
演者: 勝呂 徹
東邦大学医学部整形外科 教授
講演6 (15:35 - 16:35)
「リウマチ性脊椎疾患の診断と治療」
座長: 豊島良太
鳥取大学医学部整形外科 教授
演者: 米延策雄
独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター 副院長
講演7 (16:35 - 17:35)
「小児期のリウマチ性疾患の診断・治療の進歩
—診断のガイドラインと生物学的製剤の適応—」
座長: 伊藤保彦
日本医科大学小児科 助教授
演者: 横田俊平
横浜市立大学医学部小児科学講座 教授

閉会 (17:35)

JCR2006 全国中央教育研修会 東京大会 参加申込書

会の名称：JCR全国中央教育研修会 東京大会
 開催日時：平成18年12月3日(日) 9：30-17：40
 会場：日本医師会館（9：00開館）
 〒113-0021 文京区本駒込2-28-16
 TEL：03-3946-2121（代表）
 受講料：5,000円

単 位：7
 主 催：有限責任中間法人 日本リウマチ学会（JCR）
 執行機関：JCR生涯教育委員会（尾崎承一委員長）
 JCR全国中央研修会東京大会 委員長 尾崎承一
 副委員長 中村耕三

2006年12月3日(日)日本医師会館で開催されるJCR全国中央研修会東京大会に参加申込みます。

お名前：

専門領域：

所 属：

住 所：

連絡先 電話/FAX：

E-mail：

ご意見・お問い合わせ：

＜必要事項を記入の上、学会事務局までE-mail、FAXまたは郵送でお送り下さい＞

申込み、その他お問合せ先

有限責任中間法人日本リウマチ学会（JCR）本部事務局

〒105-0001東京都港区虎ノ門1-1-24 第一オカモトヤビル9階

TEL：03-5251-5353 FAX：03-5251-5354

E-mail：gakkaim@ryumachi-jp.com

*参加申込みは、先着500名で締め切ります。

*参加の受付は、受講料（5,000円）の支払いを以って確定します。

*参加申込み確定者には参加登録番号が記載された申込受付証を事前にご送付致しますので、当日必ずご持参ください。

*参加受講料は申込書ご提出後、お早めに下記へお振込み下さい。

（振込先） 三菱東京UFJ銀行虎の門支店

普通口座 2754140

口座名 (中)日本リウマチ学会 <チュウ>ニホンリウマチガッカイ

*申込受講料は、特段の理由がない限り、返金致しかねますのでご了承下さい。

*研修単位の認定証明は、当日会場で受付いたします（7単位）。

（専門医手帳をお持ちの方はご持参下さい）

*参加定員に余裕のある場合は当日参加も受け付けます。



キリトリ線

JCR2006 地域教育研修会の開催案内

学会主導の教育研修会として、JCR支部学術集会との連動により地域教育研修会が開催されます。

申込方法 氏名、勤務先名、勤務先住所及び電話番号を記入して、葉書、FAXまたはE-mailなどで各地域教育研修会事務局までお申込ください。

第1回JCR北海道・東北地域教育研修会

開催日 2006年11月23日(木)
 時間 17:00 - 19:40
 会場 札幌パークホテル
 〒064-8589 北海道札幌市中央区南10条西3丁目
 TEL: 011-511-3131 FAX: 011-531-8522
 参加費 5,000円
 単位 3
 連絡先・受講申込 〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西7丁目
 北海道大学大学院医学研究科 病態内科学講座第二内科
 渥美達也
 TEL: 011-706-5915 FAX: 011-706-7710
 E-mail: at3tat@med.hokudai.ac.jp

プログラム

講演1 (17:00 - 17:40)
 「初心者のための免疫学・分子生物学」
 北海道大学遺伝子病制御研究所病態研究部門免疫生物
 分野 教授
 小野江和則
 講演2 (17:40 - 18:20)
 「早期リウマチの診断指針」
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学系病態解析・
 制御学講座 教授
 江口勝美
 講演3 (18:20 - 19:00)
 「人工関節の適応と効果」
 鳥取大学医学部整形外科 教授
 豊島良太
 講演4 (19:00 - 19:40)
 「膠原病の皮膚症状と鑑別診断」
 大阪大学大学院情報統合医学・皮膚科学 教授
 片山一郎

* 講演1、講演4はリウマチ学会TV中継推奨となっております。

第1回JCR関東地域教育研修会

開催日 2006年12月9日(土)
 時間 16:00より
 会場 慈恵会医科大学
 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
 TEL: 03-3433-1111
 単位 2
 連絡先・受講申込 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
 東京慈恵会医科大学内科学講座 リウマチ膠原病内科
 教授
 山田昭夫
 TEL: 03-3433-1111
 E-mail: yamada@jikei.ac.jp

プログラム

講演1
 「血管炎症候群の診断・評価・治療 —ANCA関連血管
 炎を中心に—」
 聖マリアンナ医科大学 教授
 尾崎承一
 講演2
 「PETの骨関節疾患診断への応用」
 横浜市立大学 教授
 齋藤知行

* 講演1、講演2はリウマチ学会TV中継推奨となっております。

第1回JCR中国・四国地域教育研修会

開催日 2006年10月22日(日)
 時間 8:30 - 12:50
 会場 徳島大学大蔵キャンパス内長井記念ホール
 〒700-8558 徳島市蔵本町3丁目18-15
 単位 4
 連絡先・受講申込 〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15
 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 分子
 制御内科学
 谷 憲治
 TEL: 088-633-7127
 E-mail: kenjikt@clin.med.tokushima-u.ac.jp

プログラム

開会の辞 (8:30 - 8:35)
 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・内分泌・代謝
 内科学 教授
 榎野博史
 講演1 (8:35 - 9:05)
 「関節リウマチにおけるサイトカイン発現異常」
 愛知医科大学病院リウマチ科 教授
 山村昌弘
 講演2 (9:05 - 9:35)
 「関節リウマチと薬物療法」
 香川大学医学部第一内科 助手
 土橋浩章
 講演3 (9:35 - 10:05)
 「ループモデルマウスから学ぶもの」
 愛媛大学大学院医学系研究科 病因・病態学講座ゲノム
 病理学分野 教授
 能勢真人
 講演4 (10:05 - 10:35)
 「軟骨代謝と変形性関節症」
 島根大学医学部整形外科 教授
 内尾祐司
 休憩 (10:35 - 10:45)
 講演5 (10:45 - 11:15)
 「関節リウマチの手術療法」
 独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院整形外科
 部長
 横山良樹
 講演6 (11:15 - 11:45)
 「関節リウマチのリハビリテーション」
 岡山大学医学部・歯学部附属病院総合リハビリテーショ
 ン部 教授・部長
 千田益生
 講演7 (11:45 - 12:15)
 「ステロイド注意すべき副作用」
 島根大学医学部附属病院輸血部 教授
 熊倉俊一
 講演8 (12:15 - 12:45)
 「膠原病肺の診断と治療」
 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 分子制御
 内科学 助教授
 谷 憲治
 閉会の辞 (12:45 - 12:50)
 鳥取大学医学部整形外科 教授
 豊島良太

* 講演1、講演5はリウマチ学会TV中継推奨となっております。

JCR2006(中)日本リウマチ学会支部学術集会

第16回 北海道・東北支部学術集会

開催日 2006年11月24日(金) 13:00 - 18:00
2006年11月25日(土) 9:00 - 13:00

会場 北海道大学学術交流会館
〒060-0808 札幌市北区8条西5丁目
TEL: 011-706-2141

会長 北海道大学大学院医学研究科整形外科学分野 教授
三浪明男

連絡先 北海道大学大学院医学研究科整形外科学分野
眞島任史
〒060-8638 札幌市北区北15条西8丁目
TEL: 011-706-5935 FAX: 011-706-6054
E-mail: tkmajima@med.hokudai.ac.jp

内容 特別講演 (11月25日)
「関節リウマチの治療・パラダイムシフト」
産業医科大学第一内科 教授
田中良哉
ランチョンセミナー (11月25日)
「リウマチ性頸椎疾患に対する診断と治療」
北海道大学保健管理センター 教授
鑑 邦芳
シンポジウム
「関節リウマチに対する人工関節置換術の進歩と問題点」
「関節リウマチ診療の最前線」
(一部演者指定)

申込み 第15回と同様E-mail添付で直接募集

第17回 関東支部学術集会

開催日 2006年12月9日(土)

会場 東京慈恵会医科大学 1号館講堂

会長 東京慈恵会医科大学内科学講座リウマチ・膠原病内科 教授
山田昭夫

参加費 3,000円

内容 シンポジウム1 「シェーグレン症候群と臓器病変」
シンポジウム2 「血管新生と膠原病」
シンポジウム3 「生物製剤のさらなる応用」
ヌーンタイムレクチャー
「米国生物製剤事情」 Peter Shane
ランチョンセミナー1
「関節リウマチ骨破壊のメカニズム」 田中 榮
ランチョンセミナー2
「膠原病の腎病変」 (予定)

一般演題申し込み方法:

UMIN (大学病院医療情報ネットワーク) のご協力を得たインターネット投稿のみの受付。
インターネットでの申し込みが出来ない場合は事務局へE-mail またはFAXにてご相談ください。

第17回 中国・四国支部学術集会

開催日 2006年10月21日(土) 9:00 - 16:30

会場 徳島大学医学部臨床講堂
〒770-8503
徳島県徳島市蔵本町三丁目18-15
TEL: 088-633-7127

会長 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部分子制御
内科学 助教授
谷 憲治

参加費 ¥3,000

連絡先 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部分子制御

内科学 助教授

谷 憲治

〒770-8503 徳島市蔵本町三丁目18-15

TEL: 088-633-7127 FAX: 088-633-2134

E-mail: kenjikt@clin.med.tokushima-u.ac.jp

http://www.chushi06.umin.jp/

大会ホームページ
内容

特別講演 I

「リウマチの内科的治療: DMARDs と生物学的製剤の使い方」

筑波大学大学院人間総合科学研究科 先端応用医学専攻

臨床免疫学 教授

住田孝之

ランチョンセミナー

「リウマチ膠原病診療に必要な感染症の知識」

大阪大学医学部附属病院感染制御部 教授

朝野和典

特別講演 II

「RA治療における生物学的製剤と外科的治療の意義」

東京女子医科大学東医療センター病院長 整形外科 教授

井上和彦

第33回 九州・沖縄支部学術集会

開催日 2007年3月10日(土)
2007年3月11日(日)

会場 大分全日空ホテルオアシスタワー
〒870-0029 大分市高砂町2-48
TEL: 097-533-4411

iichiko総合文化センター音の泉ホール
〒870-0029 大分市高砂町2-33 オアシスひろば21内
TEL: 097-533-4003

会長 大分大学医学部整形外科 教授
津村 弘

連絡先 〒879-5593 大分県由布市狭間町医大ヶ丘1-1
大分大学医学部整形外科
TEL: 097-586-5872 FAX: 097-549-6647

第19回 中部支部学術集会

開催日 2007年9月8日(土)

会場 オークス・カナルパークホテル富山
〒930-0858 富山県富山市牛島町11-1
TEL: 076-432-2000

会長 富山大学医学部整形外科学 教授
木村友厚

連絡先 〒930-0194 富山市杉谷2630
富山大学医学部整形外科内 担当 松下 功
TEL: 076-434-7350 FAX: 076-434-5035
E-mail: chubu19@med.u-toyama.ac.jp

第17回 近畿支部学術集会

開催日 2007年9月8日(土)

会場 毎日新聞社オーバルホール
〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5
TEL: 06-6346-8357

会長 神戸大学医学部保健学科臨床免疫学・膠原病学 教授
塩沢俊一

各支部だより

(中)日本リウマチ学会関東支部

聖マリアンナ医科大学
リウマチ・膠原病・アレルギー内科 尾崎 承一

(中)日本リウマチ学会関東支部では、2005年4月に、その支部長が東京大学アレルギー・リウマチ内科の山本一彦教授から聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科の尾崎承一に交替いたしました。また、同年10月には運営委員の任期満了に伴う改選が行われ、新たな運営委員が10名選出されました。その新旧の運営委員の引継ぎを兼ねて、関東支部運営委員会が第16回日本リウマチ学会関東支部学術集会の当日に行われました。

その学術集会は筑波大学臨床免疫学講座の住田孝之教授を会長として2005年12月10日につくば国際会議場（写真）で開かれました。特別講演2、主題シンポジウム2、パネルディスカッション1、ランチョンセミナー2、一般演題44のプログラムに、311名の会員が参加して盛況裡に行われました。住田会長の御発案で学術集会記録集が2006年3月に完成し、会員に発送されました。今、改めてこの記録集を手にしてみると、日常診療や教育に有意義な書籍であることが実感されます。

第17回日本リウマチ学会関東支部学術集会は、慈恵会医科大学、リウマチ・膠原病内科の山田昭夫教授を会長として、2006年12月9日（土）に慈恵会医科大学で開催される予定です。それに関連して、関東支部地域教育研修会も同日・同場所で開催される運びとなっています。その1週間前の12月3日（日）には（中）日本リウマチ学会中央教育研修会も東京で開催の予定となっており、タイトな1週間になりそうです。

さて、リウマチ性疾患の診療は内科的治療と整形外科的治療とが車の両輪のごとく調和して進められるものであります。日本リウマチ学会の専門分野別会員数を見ても、内科医3,313名、整形外科医4,496名と両者拮抗しています（表）。特に関東支部では総会員数2,806名中、内科医1,279名、整形外科医1,109名であり、6支部の中で唯一内科医の数が多いのが特徴です。リウマチ学の研究・教育の分野もまた、内科と整形外科が手を携えて推進して行くべきものであり、今後ますます両者の緊密な連携が必要になると思われます。

私ども聖マリアンナ医大では、整形外科の青木治人学長、別府諸兄教授とともに「Joint Meeting」という月1回の勉強会を4年前から開いています。そこに整形外科とリウマチ内科の両教室員が参加して、共通の患者さんの症例検討や講演会を行っています。申すまでもなく、「joint」には「関節」と「結束」という二つの意味を懸けています。12月には忘年会を兼ねて「Special Joint Meeting」を開催しており、今年もそろそろ、その準備の季節が近づいてきたと実感しているところです。

リウマチ学会支部・専門分野別会員数 2006.8.16現在

	会員数(名誉会員・功労会員・評議員・正会員)			
	内科	整形外科	その他	計
北海道・東北支部	337	373	76	786
関東支部	1,279	1,109	418	2,806
中部支部	463	859	136	1,458
近畿支部	458	931	162	1,551
中国・四国支部	375	525	78	978
九州・沖縄支部	401	699	108	1,208
合計	3,313	4,496	978	8,787



(中)日本リウマチ学会九州・沖縄支部

九州大学大学院
医学研究院整形外科

岩本 幸英

日本リウマチ学会九州・沖縄支部である九州リウマチ学会の会員数は600名を越え、年2回の学術集会を開催してリウマチ学に関する情報交換を活発に行っています。毎回、主題を2テーマ程度設けており、多くの場合、薬物療法や合併症、膠原病などから1つと手術療法から各々1つずつの主題が取り上げられています(表1)。最近10年の主題テーマを振り返ってみてみると、手術療法についても、薬物療法についても難しい症例への対応策が多くとりあげられていることがわかります。また、平成16年からは新規の抗リウマチ剤や生物製剤に関するテーマが取り上げられるようになり、この3年間でリウマチ治療が大きな変貌をとげつつあることを裏付けています。一般演題においても、新規の抗リウマチ剤や生物製剤関連の演題は年々増加しており、平成18年3月4日、5日に開催された第31回九州リウマチ学会では、全75演題のうち、19題と多数の発表がなされました。当初、限られた施設からだけだった生物製剤関連の演題も、次第に多くの施設から発表されるようになり、その内容も、第32回の主題テーマにも現れているように、ただ成績が良かったという内容よりも、合併症や問題点などに焦点を絞った、より実践的な内容が多くなってきました。近年の積極的治療での成功例の検討とは裏腹の、診断・治療の難しさや落とし穴などへの注意を喚起するような内容も、参加者にとって意義深い学術集会となる重要なポイントだと感じています。

また、今年度から始まった日本リウマチ学会の生涯教育活動の一環としての地域研修会である、第1回JCR九州・沖縄地域教育研修会を平成18年9月17日に福岡市で開催することが決まっています(表2)。実際のリウマチ診療においてすぐに役立つ、実践的な内容で構成し、それぞれの分野でのエキスパートを講師に招いています。この研修会が、リウマチを専門としてご活躍の先生方はもちろん、これから最新のリウマチ診療を勉強したい先生方、専門医を目指す先生方などの知識のブラッシュアップのお役に立てればと思っています。これからも多彩な内容の学術集会・研修会を企画し、九州・沖縄地区でのリウマチ診療の底上げを目指していきたいと考えております。

(表1)

九州リウマチ学会 (日本リウマチ学会九州・沖縄支部) 学術集会 主題一覧 一過去10年間一	
H9.3.29~30 鹿児島市 会長：鹿児島赤十字病院 松田剛正	1：リウマチ性疾患の診療の工夫 2：上肢の滑膜切除術
H9.9.6~7 北九州市 会長：九州労災病院 加茂洋志	重症RAの治療
H10.3.14~15 熊本市 会長：熊本機形病院 木村千仍	抗リウマチ剤の併用療法
H10.9.5~6 佐賀市 会長：佐賀医科大学 長澤浩平	1：リウマチ性疾患におけるシクロスポリン療法の位置付け 2：RA多関節手術の適応及び予後
H11.3.13~14 宮崎市 会長：宮崎医科大学 田島直也	1：リウマチとアミロイドーシス 2：リウマチの脊椎病変
H11.9.4~5 長崎市 会長：長崎大学 江口勝美	1：MTX治療の再評価と問題点 2：RA後定部の手術と装具療法
H12.3.4~5 久留米市 会長：久留米大学 山中健輔	1：リウマチ性疾患における骨粗鬆症 2：人工関節周辺骨折治療の問題点
H12.9.15~16 福岡市 会長：九州大学 岩本幸英	1：早期RAの治療(早期RAに対する抗リウマチ薬の使用法) 2：高度に破壊された膝・股関節症例への対応策
H13.3.17~18 鹿児島市 会長：鹿児島大学 鈴之原昌	1：成人スチル病とJRA全身型の症例検討 2：RAの外科的治療における術前術後の合併症と対策
H13.9.8~9 熊本市 会長：熊本整形外科病院 東野通志	1：多剤抵抗性RAの治療 2：RA手の外科的治療と装具の工夫
H14.3.2~3 別府市 会長：国立別府病院 安田正之	1：リウマチ・膠原病診療におけるクリティカルパス導入の現状と問題点 2：リウマチ性疾患の病因としての感染症
H14.8.31~9.1 北九州市 会長：産業医科大学 田中良哉	1：リウマチによる骨関節破壊の進展は防止できるか 2：リウマチ性疾患に伴う骨粗鬆症
H15.3.1~2 那覇市 会長：琉球大学 金谷文則	1：RA上肢の機能再建 2：リウマチ膠原病の重症肺病変
H15.9.13~14 佐賀市 会長：佐賀医科大学 忽那龍雄	1：リウマチの新しい臨床検査の意義と評価 2：最近の人工関節とその成績
H16.2.28~29 長崎市 会長：長崎大学 江口勝美	1：新規治療法の投与経験 -レフルノミド- 生物学的製剤 2：足部の外科的治療と装具の工夫
H16.9.4~5 久留米市 会長：久留米大学医療センター 福田孝昭	1：レフルノミド 2：骨粗しょう症 3：インフリキシマブ
H17.3.5~6 福岡市 会長：近畿リウマチ・整形外科クリニック 近藤正一	1：新規抗リウマチ薬の成績 -インフリキシマブ- 2：新規リウマチ薬の成績 -レフルノミドとLCAP- 3：RAに対する膝・股関節以外の各種人工関節の成績
H17.9.17~18 鹿児島市 会長：鹿児島大学 小高節朗	1：RAにおけるステロイドの功罪 2：生物学的製剤のリウマチ 骨粗鬆症や近縁の炎症性疾患への有効性
H18.3.4~5 宮崎市 会長：宮崎大学 帖佐悦男	1：1) 人工股関節再置換術 2) 人工膝関節再置換術 2：診断・治療に難渋した症例の対策
H18.9.9~10 熊本市 会長：NTT西日本九州病院 伊勢結平	1：新規抗リウマチ剤の使い方と副作用 2：新規抗リウマチ剤使用中の手術療法

(表2)

第1回JCR九州・沖縄地域教育研修会 平成18年9月17日(日)・九州大学医学部百年講堂(福岡市)	
9:30~9:35	開会の挨拶 九州リウマチ学会(日本リウマチ学会九州・沖縄支部) 支部長 岩本幸英
9:35~10:20	① 膠原病・RAにおける感染症とその対策 北九州市立医療センター内科 部長 古郷 功
10:20~11:05	② RAに対するDMARDs療法の実態 近畿リウマチ・整形外科クリニック 院長 近藤正一
11:05~11:15	休憩
11:15~12:00	③ RAに対する生物学的製剤治療の実態 産業医科大学第一内科 教授 田中良哉
12:00~12:45	④ RAにおける肺病変の評価と治療 九州大学病院呼吸器科 助手 藤田昌樹
12:45~13:20	休憩(昼食)
13:20~14:05	⑤ RAの早期診断と初期治療 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 展開医療科学講座(第一内科) 教授 江口勝美
14:05~14:50	⑥ 膠原病・RAにおける重症病態 佐賀大学内科学講座 教授 長澤浩平
14:50~15:00	休憩
15:00~15:45	⑦ RAの整形外科的管理と治療 国立病院機構九州医療センター 整形外科・リウマチ科 医長 高原寿明
15:45~16:30	⑧ RAにおける関節破壊の評価と骨粗鬆症の管理・治療 済生会八幡総合病院整形外科 部長 首藤敏秀
16:30	閉会

指導医・専門医の認定更新に関するお知らせ

(中)日本リウマチ学会の指導医および専門医の認定有効期間は、それぞれ5年と定められております。本年度(2006年度)の認定更新についてお知らせいたします。

なお、更新時65歳以上の方は申請書の提出と更新料の納付のみで資格を更新できるようになっております。

(2006年3月1日以降の第1回目の更新日までに満65歳に達する者については、その第一回目の更新については、資格維持申請書の提出及び更新料のみで専門医の資格を更新することができます)

1. 今回認定更新対象者の方は10月中に各人あて「資格維持申請書」をお送りします。
2. 申請書に必要事項を記入の上、更新費(指導医10,000円、専門医10,000円、指導医・専門医20,000円)を納入し12月末(必着)までに提出していただきます。
3. 専門医資格認定委員会、専門医制度委員会で審査の上、理事会の承認を得て、認定証・専門医手帳を3月中にお送りします。
4. 認定日は2007年3月1日といたします。
5. 今回の認定更新対象者は次の方々です。

(1)指導医・2001年度(2002年3月1日認定者および更新者)

専門医・2001年度(同上)

以上の方々は、全員です。

(2)専門医・2000年度(2001年3月1日認定)以前の認定者で2006年3月1日更新の申請で「保留」とされた方

(注記)

*専門医の資格更新について

[専門医の資格の維持及び更新]

(中)日本リウマチ学会専門医としての資格を維持するには、(中)日本リウマチ学会会員であり、専門医制度規則第6条第2項に示す有効期間の5年間に、総単位数として50単位数以上を取得しなければならない。なお、認定を受けてから有効期間(5年)経過後も取得した単位数が所定の50単位数に満たないときの取り扱いは次による。(付記)

1. 定更新の保留を申し出て、翌年度に再申請することができる。保留期間は1年とし保留期間中は専門医を呼称することはできない。(この間は「専門医」ではない。)保留期間の1年が経過した後も、なお50単位数が取得できない場合は専門医の資格を喪失する。なお、資格喪失後、再度専門医になるためには、専門医資格認定試験を改めて受験し、合格しなければならない。
2. 海外留学または病気、出産等で単位の履修ができない特別の事情がある場合は、それを証明する書面を添えて認定更新の有効期間(5年)を留学等の期間だけ延長の申請をすることができる。(認められた場合は、この間は「専門医」である。)延長後の更新は、前号に準じて行う。

*更新終了後の専門医手帳の破棄について

認定医更新の際に提出された専門医手帳は手続きを終了し、新規の手帳を送付しました後は学会事務局で保管いたしますが、保管期間は1ヵ年とし1年経過後破棄いたします。

なお、現在保管しておりますのは前回(2005年3月更新分)の手帳です。

ご必要の方は学会事務局までご連絡下さい。2006年3月末で破棄いたします。

(中)日本リウマチ学会
専門医制度委員会
専門医資格認定委員会

ARA-APLAR 奨学金 オーストラリアリウマチ学会学術集会への参加奨励奨学金ご案内

1. 往復旅費エコノミークラス支給
 2. 学術集会期間の5日間宿泊費支給
 3. APLAR加盟学術団体の会員、且つ過去5年間に研修を終了していることが条件
- 関心のある方は2007年1月15日までに(中)日本リウマチ学会事務局まで連絡。

日本リウマチ学会会員各位

(中)日本リウマチ学会理事長 小池 隆夫
同専門医委員会委員長 田中 良哉

専門医資格維持施行細則の改正について（再通知）

日本リウマチ学会専門医資格維持施行細則の一部改正が、平成18年度総会で承認されました。ニュースレター等で再三通知しましたが、依然周知不十分との指摘がありますので、再通知いたします。

日本専門医認定機構に加盟する学会は、基本領域学会とサブスペシャリティ領域学会に二分され（二階建制度）、本学会は後者として準拠すべき事項があります。それに従い、他のサブスペシャリティ領域学会との単位取得などに関する整合性を確保すべく、研修単位を改正しました。また、学会主催の教育研修会の充実により専門医教育システムの向上を図ることとし、非加盟団体（リウマチ財団を含む）の教育研修会の単位の流用は認められなくなりました。今一度、改正点を下記に標記しますのでご参照下さい。

本学会でも、専門医制度の充実、専門医の質の向上を目指して、更なる努力を致します所存ですので、ご理解、ご協力のほど、宜しくお願い致します。

資格取得及び維持のための研修単位は次のとおりです。（太字は変更部分/2006年5月1日）

1. (中)日本リウマチ学会（地方会を含む）および関連学会への出席
1. (中)日本リウマチ学会総会（10単位/回） 2. 国際リウマチシンポジウム（5単位/回） 3. アニュアルコースレクチャー（7単位/回） 4. (中)日本リウマチ学会地方会（5単位/回） 5. 日本医学会総会（5単位/回） 6. (中)日本リウマチ学会が認定した関連学会*（3単位/回） # 1 関連学会（*は日本医学会分科会） 日本内科学会*、日本整形外科学会*、日本小児科学会*、日本皮膚科学会*、日本アレルギー学会*、日本リハビリテーション医学会*、日本温泉気候物理医学会*、日本免疫学会*、日本超音波医学会、日本炎症・再生医学会、日本臨床免疫学会、(中)日本リウマチ学会・関節外科学会、日本痛風・核酸代謝学会、日本結合組織学会、日本臨床リウマチ学会、日本軟骨代謝学会 # 2 国際関連学会 APLAR、EULAR、ILAR、PANLAR (ACR)
2. リウマチ学に関する業績
1. Modern Rheumatology〔筆頭著者〕（7単位/編）・〔共著者〕（3単位/編） その他の学術論文〔筆頭著者〕（5単位/編）・〔共著者〕（3単位/編） 2. (中)日本リウマチ学会総会および同地方会 学会発表〔筆頭演者〕（5単位/題）
3. (中)日本リウマチ学会が主催または認定した教育研修会または講演会への出席（1単位/時間・最大7単位/1日とする）
4. 日本医師会生涯教育研修会への出席（1単位/回）
5. 教育研修（講演）会の単位認定申請について
教育研修会または講演会を主催するものが(中)日本リウマチ学会の単位認定を希望するときは、開催3ヶ月前までに(中)日本リウマチ学会専門医制度委員会に書面で申込み単位数の決定をうけなければならない。（書式は別に示す。） 付記：ただし、「日本リウマチ財団主催の教育研修会は学会認定教育研修会とする」を削除した。
附則 1. この改正細則は、2004年4月16日から実施する。 附則（2005年4月19日） 1. この改正細則は、2005年度定時社員総会で承認を受け2005年6月1日から施行する。 2. この細則は、2006年3月1日から適用する。但し、2006年2月末までに65歳に達した者は、2005年3月1日以後の第1回目の更新までは、研修単位の取得を免除する。（第2回目の更新から研修単位の取得を要する。） 附則（2006年4月25日） 1. この改正細則は、2006年度定時社員総会で承認を受け2006年5月1日から施行する。 2. 2005年4月附則第2項による2006年3月1日適用日以降の第1回目の更新日までに満65歳に達する者については、その第一回目の更新については、資格維持申請書の提出及び更新料のみで専門医の資格を更新することができる。 3. (中)日本リウマチ学会が「共催」または「認定」した研修会・講演会への出席による受講証明は、受益者負担として1単位1000円を徴収する。

2006年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」:第18次認定施設

2006年度のリウマチ教育施設にはつぎの41施設が認定されました。認定期間は2006年9月1日から2009年8月31日です。

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
北海道	473	帯広厚生病院	岐阜県	494	岐阜県立下呂温泉病院
北海道	474	総合病院釧路赤十字病院	愛知県	495	厚生連海南病院
北海道	475	市立函館病院	愛知県	496	社会保険中京病院
北海道	476	時計台記念病院リウマチ膠原病センター	三重県	497	藤田保健衛生大学七栗サナトリウム
北海道	477	北海道整形外科記念病院	京都府	498	財団法人丹後中央病院
岩手県	478	岩手県立花巻厚生病院	京都府	499	独立行政法人国立病院機構宇多野病院
東京都	479	医療法人社団順江会江東病院	大阪府	500	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
東京都	480	自衛隊中央病院	大阪府	501	市立岸和田市民病院
東京都	481	聖路加国際病院	大阪府	502	医療法人橘会東住吉森本病院
群馬県	482	公立藤岡総合病院	大阪府	503	関西医科大学附属枚方病院
埼玉県	483	北里研究所メディカルセンター病院	兵庫県	504	宝塚市立病院
埼玉県	484	埼玉県立小児医療センター	岡山県	505	慈風会津山中央病院
千葉県	485	成田赤十字病院	広島県	506	日立造船健康保険組合因島総合病院
神奈川県	486	神奈川厚生連相模原協同病院	広島県	507	広島赤十字・原爆病院
神奈川県	487	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院	香川県	508	さぬき市民病院
福井県	488	独立行政法人国立病院機構福井病院	福岡県	509	飯塚病院
静岡県	489	国際医療福祉大学附属熱海病院	福岡県	510	福岡通信病院
静岡県	490	静岡徳洲会病院	長崎県	511	医療法人慧明会貞松病院
静岡県	491	市立御前崎総合病院	熊本県	512	独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院
静岡県	492	袋井市立袋井市民病院	沖縄県	513	琉球大学医学部附属病院
静岡県	493	沼津市立病院			

2006年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」:第15次資格更新施設

2006年度のリウマチ教育施設の更新はつぎの73施設が認定されました。認定期間は2006年9月1日から2009年8月31日です。

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
青森県	115	青森県立中央病院	東京都	314	公立阿伎留病院
青森県	116	弘前大学医学部附属病院	東京都	386	国立国際医療センター
青森県	306	医療法人整友会 弘前記念病院	東京都	387	日本赤十字社医療センター
岩手県	204	独立行政法人国立病院機構盛岡病院	千葉県	297	東邦大学医療センター佐倉病院
秋田県	118	由利組合総合病院	千葉県	313	国保松戸市立病院
宮城県	119	東北大学医学部附属病院	千葉県	385	千葉県済生会習志野病院
宮城県	307	大崎市民病院	埼玉県	205	秀和総合病院
山形県	120	山形大学医学部附属病院	埼玉県	311	川口工業総合病院
福島県	122	財団法人太田総合病院附属太田西/内病院	茨城県	130	筑波大学附属病院
福島県	309	財団法人大原総合病院	茨城県	310	東京医科大学霞ヶ浦病院
東京都	245	日本医科大学附属病院	群馬県	129	医療法人井上病院
東京都	123	国家公務員共済組合連合会虎の門病院	群馬県	384	医療法人相生会わかば病院
東京都	124	財団法人佐々木研究所附属杏雲堂病院	神奈川県	298	医療法人社団ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院
東京都	125	東京都立駒込病院	神奈川県	315	医療法人(社団)新都市医療研究会「君津」会南大和病院
東京都	126	JR東京総合病院	神奈川県	316	国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
神奈川県	388	済生会神奈川県病院	大阪府	396	財団法人日本生命済生会付属日生病院
神奈川県	389	三浦市立病院	兵庫県	302	医療法人聖医会佐用中央病院
静岡県	134	浜松医科大学医学部附属病院	兵庫県	327	神戸赤十字病院
静岡県	320	藤枝市立総合病院	兵庫県	328	財団法人甲南病院 六甲アイランド病院
静岡県	393	医療法人社団駿甲会コミュニティーホスピタル甲賀病院	兵庫県	329	神戸市立西市民病院
長野県	299	長野赤十字病院	奈良県	142	奈良県立医科大学附属病院
長野県	318	飯田市立病院	奈良県	330	近畿大学医学部奈良病院
新潟県	133	新潟県立中央病院	岡山県	143	総合病院岡山市立市民病院
富山県	390	富山県済生会高岡病院	岡山県	331	独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター
石川県	301	金沢大学医学部附属病院	岡山県	397	倉敷中央病院
石川県	319	石川県済生会金沢病院	広島県	212	東広島記念病院 リウマチ膠原病センター
愛知県	209	独立行政法人労働者健康福祉機構中部労災病院	山口県	332	下関市立中央病院
愛知県	210	名古屋市立東市民病院	福岡県	213	独立行政法人国立病院機構九州医療センター
三重県	135	山田赤十字病院	福岡県	144	九州大学医学部附属病院
岐阜県	392	医療法人社団登豊会近石病院	福岡県	214	久留米大学医療センター
大阪府	137	関西電力病院	佐賀県	145	佐賀大学医学部附属病院
大阪府	138	N T T 西日本大阪病院	長崎県	146	長崎大学医学部・歯学部附属病院
大阪府	139	大阪市立大学医学部附属病院	長崎県	334	医療法人後藤会ながさき内科・リウマチ科病院
大阪府	140	大阪医科大学附属病院	熊本県	147	熊本大学医学部附属病院
大阪府	325	大阪厚生年金病院	大分県	148	独立行政法人国立病院機構別府医療センター
大阪府	326	市立枚方市民病院	鹿児島県	215	鹿児島大学医学部附属病院
大阪府	394	大阪府済生会富田林病院			



持続性抗炎症・鎮痛剤 《ナブメトン錠》

指定医薬品

レリフェン[®]錠
 RELIFEN RELIFEN[®]400 薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元
株式会社 三和化学研究所
 SKK 本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631
 ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>
 提携 グラクソ・スミスクライン株式会社

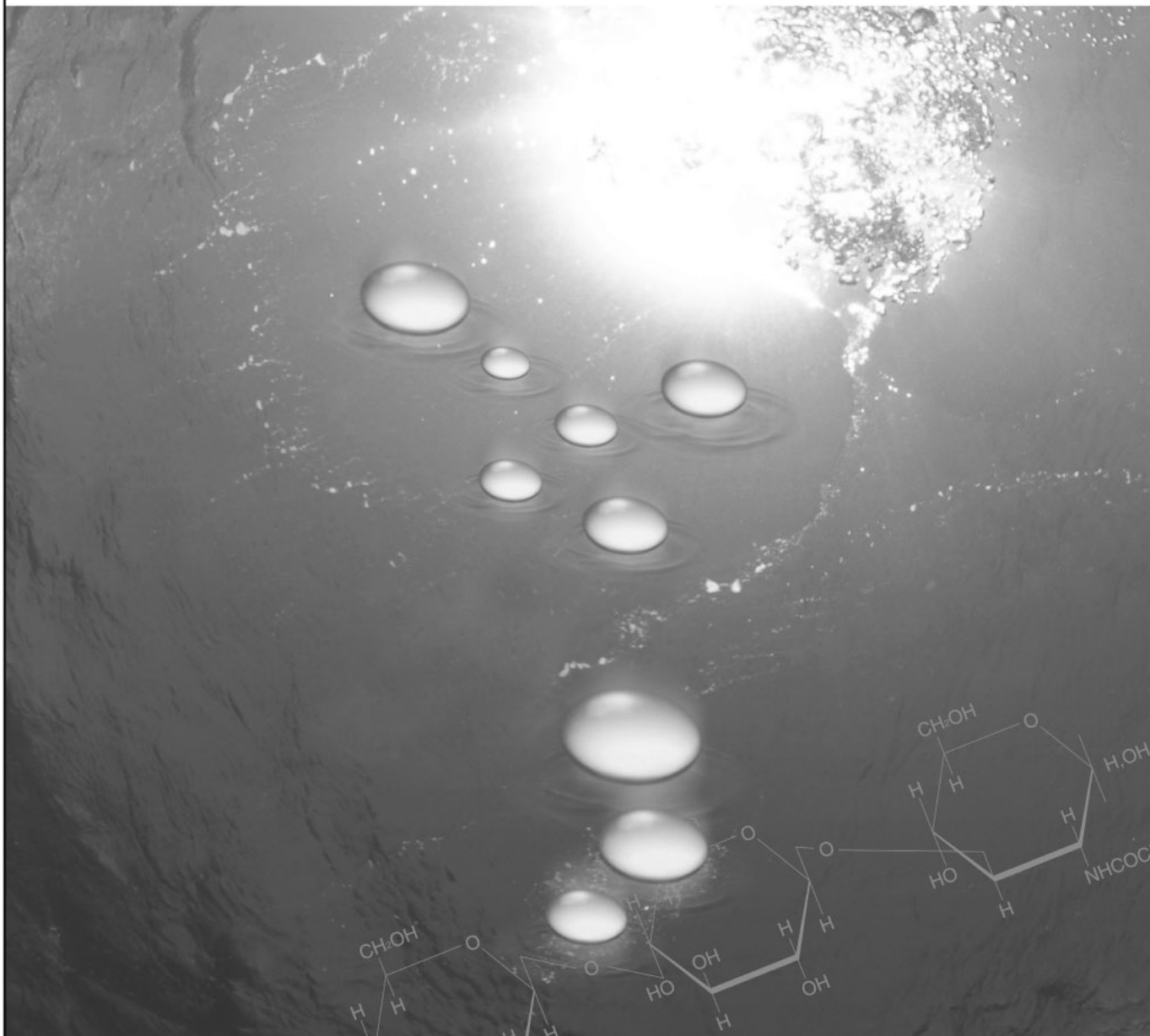
資料請求先・問い合わせ先
 コンタクトセンター
☎0120-19-8130
受付時間 月～金 9:00～17:00(祝日は除く)

2003年7月作成

都道府県別会員数等一覧表

2006年8月15日現在

支部・都道府県	正会員					専門医区分別会員数		購読会員	県支部計	うち 海外在住	教育施設数
	通常	名誉	功労	評議員	合計	専門医	指導医				
北海道	278	0	0	23	301	133	22	1	302	1	10
青森県	43	0	1	7	51	12	4	0	51	0	3
岩手県	66	0	2	6	74	31	8	0	74	0	5
宮城県	92	0	3	14	109	47	13	0	109	0	6
秋田県	53	0	1	6	60	26	3	0	60	0	4
山形県	63	0	1	4	68	22	4	0	68	0	3
福島県	107	1	0	15	123	46	12	1	124	0	10
北海道・東北支部	702	1	8	75	786	317	66	2	788	1	41
茨城県	115	0	1	6	122	40	4	2	124	2	5
栃木県	104	0	4	8	116	46	4	2	118	3	2
群馬県	127	0	0	5	132	53	6	0	132	2	8
埼玉県	244	0	0	20	264	112	16	3	267	1	12
千葉県	257	1	2	22	282	139	19	0	282	4	11
東京都	1,121	11	28	148	1,308	515	130	56	1,364	16	43
神奈川県	509	2	11	60	582	249	56	8	590	6	30
関東支部	2,477	14	46	269	2,806	1,154	235	71	2,877	34	111
山梨県	60	0	0	2	62	28	0	0	62	0	3
長野県	145	0	1	6	152	54	4	1	153	1	7
新潟県	81	1	0	14	96	43	13	0	96	2	4
富山県	87	0	1	5	93	31	6	1	94	0	4
石川県	99	0	0	8	107	35	5	0	107	0	4
福井県	75	0	1	3	79	26	1	0	79	0	3
岐阜県	134	0	0	6	140	55	7	0	140	2	6
静岡県	182	0	1	17	200	93	14	0	200	0	14
愛知県	403	2	5	37	447	166	29	4	451	3	24
三重県	78	0	0	4	82	47	2	0	82	1	3
中部支部	1,344	3	9	102	1,458	578	81	6	1,464	9	72
滋賀県	76	0	0	7	83	32	5	0	83	1	1
京都府	208	2	1	17	228	74	10	2	230	0	6
大阪府	584	1	5	37	627	279	35	17	644	3	35
兵庫県	419	1	7	32	459	198	26	2	461	4	18
奈良県	92	0	1	6	99	42	4	0	99	0	3
和歌山県	51	0	0	4	55	20	3	0	55	0	1
近畿支部	1,430	4	14	103	1,551	645	83	21	1,572	8	64
鳥取県	52	0	1	4	57	18	5	0	57	0	3
島根県	41	1	0	4	46	17	4	0	46	0	4
岡山県	204	1	1	20	226	79	11	0	226	4	11
広島県	168	0	0	17	185	65	9	1	186	2	9
山口県	79	0	0	6	85	28	5	0	85	1	5
徳島県	68	0	0	7	75	20	2	0	75	2	2
香川県	77	0	0	11	88	38	8	0	88	1	4
愛媛県	114	0	1	16	131	57	12	0	131	1	5
高知県	77	0	0	8	85	24	3	0	85	0	4
中国・四国支部	880	2	3	93	978	346	59	1	979	11	47
福岡県	396	0	4	40	440	161	26	0	440	5	16
佐賀県	47	0	0	6	53	26	2	2	55	1	2
長崎県	107	1	0	12	120	52	5	0	120	0	8
熊本県	180	0	1	17	198	63	7	0	198	0	10
大分県	125	1	0	13	139	45	8	1	40	1	4
宮崎県	85	0	0	7	92	41	5	0	92	0	4
鹿児島県	110	0	0	11	121	48	5	0	121	1	4
沖縄県	40	0	0	5	45	16	1	0	45	0	1
九州・沖縄支部	1,090	2	5	111	1,208	452	59	3	1,211	8	49
外国	10	0	0	0	10	0	0	0	10	10	0
合計	7,933	26	85	753	8,797	3,492	583	104	8,901	81	384



関節機能改善剤

指定医薬品、処方せん医薬品^{注)}

薬価基準収載

スベニール® ディスポ
バイアル

SUVENYL® ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」、「使用上の注意」等については最新の添付文書をご参照ください。 <http://www.chugai-pharm.co.jp>

製造販売元



CHUGAI

〔資料請求先〕

中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

Roche ロシュグループ

2005.10

MR、HPのお知らせとお願い

「学会誌MR検索システム導入のお知らせと論文引用のお願い」

Letter From Editor-in-Chief

本年2月、学会誌Modern Rheumatology (MR)はMEDLINE収録を達成し、MRは世界的に認知されるリウマチ国際誌となりました。今後見込まれるImpact Factor取得におきましては、MR掲載論文がどれだけ他のジャーナルの論文に引用されるかが重要な鍵となっております。

現在ホームページ上で、過去5年間にMRに掲載された論文のabstractを学会一般ページに、abstractと論文全文を会員専用ページに公開しておりますが、会員の皆様の利便性向上のため、新たにキーワード検索による論文検索機能を設けました。

一般ページ <http://www.ryumachi-jp.com/publish/shoroku/modern.html>

会員専用ページ <https://www.ryumachi-jp.com/Ryumachi/Secure/kaiin/hakko/modern.html>

(ページ右上のMR SEARCH バーから検索機能をご利用ください)

MRをわが国のリウマチ学研究的発信拠点として世界に向けて飛躍発展させるためには、会員の皆様方に今後ますます多くの優れた論文をMRに投稿していただくとともに、新たな論文を執筆する際には(これはMRに限らずすべてのMEDLINE掲載のpeer-reviewed journalへの投稿を含みます)、MRの掲載論文をできる限り多く引用文献として引用していただくことをお願いします。

(中)日本リウマチ学会会員の皆様には、MRの国際化と発展のために今後一層のご協力をお願いいたします。

MR編集委員会

委員長 三森 経世



学会ホームページのご案内

◆会員専用ページをご利用ください

有限責任中間法人日本リウマチ学会では学会ホームページ、メルマガを通じ、学会の情報をいち早く公開しております。さらに「会員専用ページ」ではニューズレター、メルマガのバックナンバーのほか、学会英文誌Modern Rheumatology (MR)の過去5年間に掲載された論文のフルテキスト(PDFファイル)がご覧いただけるほか、最新号も冊子として公開される前に電子ジャーナルとしてご覧いただけます。便利な検索機能も追加していますので、是非ご利用ください。

会員専用ページは入会いただければどなたでもご覧いただけます。

<メールアドレスをご登録ください>

メルマガの受信と「会員専用ページ」へのログインには、学会へのメールアドレス登録が必要です。

学会事務局(gakkaim@ryumachi-jp.com)までお持ちのメールアドレスをお知らせください。

<会員専用ページへのログイン>

すでにメールアドレスを登録されている方、学会に新規にメールアドレスを登録された方は、ホームページ右上の「会員専用ページ」入口から、「ログインが初めての方は」に記述されている手順に従いパスワード登録を行ってください。登録されたメールアドレスとパスワードにより「会員専用ページ」がご覧いただけます。

その他、ご不明な点がございましたら学会事務局までお問い合わせください。

メールアドレス登録送付先(問合せ): gakkaim@ryumachi-jp.com

パスワード登録URL: <http://www.ryumachi-jp.com/>

JCR専門医単位認定TV講演開始のお知らせ

JCRではインターネットTVを通じリウマチ専門医の単位申請受付を開始いたしました。今回JCR生涯教育委員会の推薦演題13題（長崎大会）を収録し公開いたしました。

JCR単位認定TVは会員の方はどなたでも視聴できますが単位取得申請は有料となります。

単位申請期間：2006年9月15日～12月31日

単位取得費用：1単位 3,000円

単位取得上限：7単位（対象：下記 NL-01-1からNL-12までの13演題）

単位申請方法：TV講演視聴後、E-mailにて視聴講演と単位数を申請

URL：<http://www.ryumachi-jp.com>

（JCR学会員専用ページ）

JCR専門医制度委員会

JCR生涯教育委員会

JCR情報化委員会

JCR専門医単位認定TV講演

■単位取得対象講演（視聴期間：2006年12月31日まで）

TV講演番号	演題タイトル	演者
NL-01-1	薬剤性肺炎の診断 -薬剤性肺炎のガイドラインを含めて-	広島国際大学保健医療学部 教授 中島正光
NL-01-2	関節リウマチと間質性肺病変 -血清マーカーを中心に-	独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター 當間重人
NL-02	シェーグレン症候群と抗セントロメア抗体	金沢大学医学部付属病院 川野充弘
NL-03	MTXは関節リウマチ治療の基本です -アンカードラッグ（要の薬剤）としての重要性和安全性-	産業医科大学第一内科学講座 教授 田中良哉
NL-04	高齢者の腰下肢痛 -診断のポイントとプライマリーケア-	埼玉医科大学整形外科・脊椎外科 教授 高橋啓介
NL-05	薬剤性胃粘膜傷害と最新の対処法	京都府立医科大学大学院医学研究所生体機能制御学 教授 吉川敏一
NL-06	アミロイドーシス治療の新しい展開-SAAの治療への応用-	東京女子医科大学付属膠原病リウマチ痛風センター 助教授 寺井千尋
NL-07	関節リウマチ治療におけるタクロリムスの位置付けと使用上の注意点	東邦大学医療センター大森病院膠原病科 教授 川合眞一
NL-08	抗サイトカイン製剤療法における効果判定 -血清中MMP-3を中心として-	名古屋大学整形外科 教授 石黒直樹
NL-09	COX-2とNSAID・COX-2阻害薬の基礎と臨床 -現在と比較-	兵庫医科大学内科学講座リウマチ・膠原病科 教授 佐野 統
NL-10	関節リウマチ診療ガイドライン情報と併用療法	順天堂大学医学部膠原病内科 教授 高崎芳成
NL-11	高齢者における関節リウマチ治療について	筑波大学大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻臨床免疫学 伊藤 聡
NL-12	関節リウマチ治療における腎傷害 -NSAIDs（非ステロイド系抗炎症薬）による腎傷害	星薬科大学薬学部病態生理学教室 教授 吉田 正

※原則1演題1単位ですが、NL-01-1とNL-01-2は2演題で1単位となります。

今回は長崎大会のJCR生涯教育委員会による13推薦演題が対象ですが、9月以降開催されるJCR地域教育研修会の推薦演題も単位申請対象講演として1月から放映予定です。

■JCR地域教育研修会の単位認定TV講演放送予定

JCR近畿地域教育研修会	「生物学的製剤の効果減弱例に対する滑膜切除の意義」 東京女子医科大学東医療センター病院長 井上和彦
JCR中部地域教育研修会	「RAの内科的合併症」 新潟大学医学部保健学科 教授 中野正明
JCR九州・沖縄地域教育研修会	「RAの早期診断と初期治療」 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・制御学講座（第一内科） 教授 江口勝美 「RAの整形外科的管理と治療」 国立病院機構九州医療センター 整形外科・リウマチ科 医長 宮原寿明
JCR中国・四国地域教育研修会	「関節リウマチにおけるサイトカイン発現異常」 愛知医科大学病院リウマチ科 教授 山村昌弘 「関節リウマチの手術療法」 独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院整形外科 部長 横山良樹
JCR北海道東北地域教育研修会	「初心者のための免疫学・分子生物学」 北海道大学遺伝子病制御研究所病態研究部門免疫生物分野 教授 小野江和則 「膠原病の皮膚症状と鑑別診断」 大阪大学大学院情報統合医学・皮膚科学 教授 片山一郎
JCR関東地域教育研修会	「血管炎症候群の診断・評価・治療 -ANCA関連血管炎を中心に-」 聖マリアンナ医科大学 教授 尾崎承一 「PETの骨関節疾患診断への応用」 横浜市立大学 教授 齋藤知行

詳細につきましては学会事務局にお問い合わせいただくか、学会ホームページ<http://www.ryumachi-jp.com>をご覧ください。

血清中の抗ガラクトース欠損IgG抗体測定用医薬品

[検体検査実施料収載]

日本標準商品分類番号 877449

ピコルミ[®] CA・RF

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00670000

〈電気化学発光免疫測定法—ECLIA法〉




RAの早期診断補助に

【特性】

- 1 早期RA患者において、従来のリウマトイド因子(RF)測定法に比較し、優れた陽性率です。
- 2 従来のRF測定法で陰性のセロネガティブRA患者でも陽性率が高く有用です。
- 3 RA患者の症状改善、悪化に伴い従来法に比べて測定値が有意に変動します。
- 4 ピコルミCA・RFは自動測定が可能であり、広い測定レンジ(1~500AU/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
- 5 ピコルミCA・RFはエイテストCA・RF(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。

製造販売元  **三光純薬株式会社**
東京都千代田区岩本町1-10-6

販売提携  **エーザイ株式会社**
東京都文京区小石川4-6-10
<http://www.eisai.co.jp>



経皮吸収型鎮痛消炎剤

指定医薬品

ファルジー®

Falzy®: フェルビナク貼付剤

● 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売 **maruho** マルホ株式会社
大阪市北区中津1-5-22 〒531-0071

製造販売 **埼玉第一製薬株式会社**
埼玉県春日部市南栄町8-1

- **巻頭言**
学会の国際化に向けて……………宮坂 信之… 1
- **第51回日本リウマチ学会総会・学術集会／
第16回国際リウマチシンポジウム**……………2～5
第51回日本リウマチ学会総会・学術集会／第16回国際リウマチシンポ
ジウム／第51回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録選
定委員会／国際リウマチシンポジウム
- **創立50周年記念企画**……………6～10
歴代学会長及び名誉会員の声と提言／リウマチ性疾患の診療の進歩
- **APLAR2006傍聴記**……………横田 俊平…7～11
- **EULAR 2006に参加して**……………菊池 啓…12
- **海外留学体験記**……………三枝 淳…13
- **委員会だより**……………14～17
- **INFORMATION**……………20～23/26～30
第1回JCR全国中央教育研修会 大阪大会開催／2006年度全国中央
教育研修会 東京大会／JCR2006 全国中央教育研修会 東京大会
参加申込書／JCR2006 地域教育研修会の開催案内／JCR2006(中)日
本リウマチ学会支部学術集会／JCR2006 地域教育研修会の開催案内
指導医・専門医の認定更新に関するお知らせ／専門医資格維持施行細
則の改正について(再通知)／2006年度(中)日本リウマチ学会「教育施
設」：第18次認定施設／2006年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」：
第15次資格更新施設／都道府県別会員数等一覧表
- **各支部だより**……………24～25
(中)日本リウマチ学会関東支部／(中)日本リウマチ学会九州・沖縄支部
- **MR、HPのお知らせとお願い**……………32～33
学会誌MR検索システム導入のお知らせと論文引用のお願い／学会ホー
ムページのご案内／JCR専門医単位認定TV講演開始のお知らせ
- **目次・奥付**……………36

● **ご意見をお聞かせください**

Newsletter「リウマチ」では会員の皆様のご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまでお寄せください。
E-mail: nl@ryumachi-jp.com

(中) 日本リウマチ学会ホームページのご案内

登録情報(住所、勤務先など)の変更、留学届け、その他お問合せは学会ホームページをご利用ください。
URL: <http://www.ryumachi-jp.com>

- **情報化委員会** 担当理事：澤井高志
ニュースレター小委員会 委員長：天野宏一／委員：諏訪 昭・田中真希・中島亜矢子(順不同)

ニュースレター 2006年・第11号 発行日2006年9月20日
発 行 者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会
〒102-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F
TEL: 03-5251-5353 FAX: 03-5251-5354
E-mail: gakkaim@ryumachi-jp.com URL <http://www.ryumachi-jp.com>
デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5
TEL: 03-5215-6560 FAX: 03-5215-6560 E-mail: creat-m2@sea.plala.or.jp
印 刷 社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4
TEL: 03-3591-1025 FAX: 03-3591-0546



完全ヒト型可溶性TNF α /LT α レセプター製剤 薬価基準収載

エンブレル[®]皮下注用25mg

ENBREL[®] 25mg for S.C. Injection エタネルセプト(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品[※] 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

注意 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Wyeth

製造販売元
ワイズ株式会社
〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目10番3号
<http://www.wyeth.jp/>

販売
武田薬品工業株式会社
〒540-8945 大阪府中央区道頓堀町四丁目1番14号
<http://www.takeda.co.jp/>

REMICADE



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レミケード[®]点滴静注用100

REMICADE[®] for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 凍薬 指定医薬品 処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

※ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)

田辺製薬株式会社

〒541-8505 大阪市中央区道徳町3丁目2番10号
<http://www.tanabe.co.jp/>



製造元

Centocor

マルバーン/ペンシルバニア州(アメリカ)

2005年9月作成